

神奈川工科大学広報

KANAGAWA
INSTITUTE
OF
TECHNOLOGY

Kait

No.172



〈特集〉

高い満足度を誇る 本学の就職サポート

学科TOPICS
News&Topics

高い満足度を誇る 本学の就職サポート



「求人については若干増えています。現在の内定率は前年とほぼ同じですが、まだまだ油断は禁物です。」と、学生支援本部キャリア就職担当・卒業生支援担当の関喜義部長。世間では、様々な経済効果が叫ばれていますが、就職状況は決して甘くないというのが現状のようです。

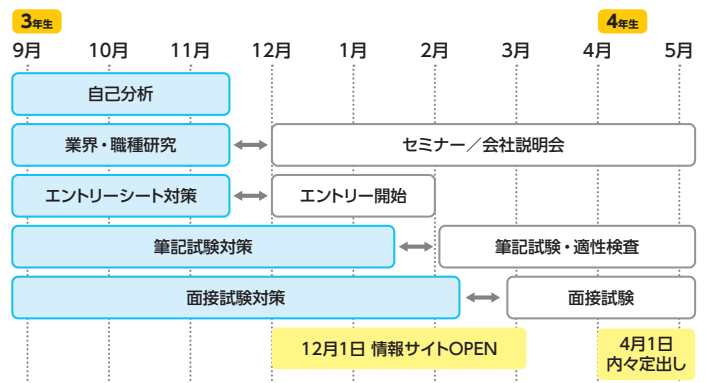
しかし、あと2か月後の12月には3年生の就職戦線がスタートします（現在の2年生は2015年3月開始）。どのように臨めばよいのでしょうか？その心構えは？そして、満足度の高い就職を実現するための就職サポートや気になる就活の現状についてQ&A方式でまとめてみました。

【就職活動のスケジュール】

今年の3年生の就職活動解禁は12月1日。その時期に応じて“やっておかなければならないこと”があります。スケジュール（表参照）に沿って自分を知る自己分析をはじめ、業界や職種の研究、エントリーシート対策、筆記試験対策、面接試験対策など、おおまかな就職活動の流れを把握して、何をすべきなのか確認しながら就職活動を進めることが大切です。



就職活動の流れ（平成26年3月卒）



「キャリア形成」から「進学」「就職」 「卒業後のサポート」まで

神奈川工科大学の就職支援のモットーは「学生を無事に社会に送り出すまでが大学の使命」というものです。そのため魅力ある企業研究会や就活セミナー、合同企業説明会など表に示したようなさまざまなキャリア就職支援講座を1年次から用意し対応しています。

1年次	2年次	3年次	4年次
自己分析・自己発見	自己理解・職業観育成	将来設計構築・就業体験	職業選択・進路決定
キャリア形成科目（正課授業） キャリア設計／キャリア開発	インターンシップ準備演習／インターンシップ／業界研究		卒業研究
キャリアサポートプログラム<正課外>			
<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援講座 就職一般常識模擬試験 SPI2就職模擬試験 システムエンジニア適性検査 職業適性検査 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある企業研究会 SPI2対策講座 前期就活セミナー ●キャリア就職ガイダンス ●業界、職種、企業情報 ●就活適性検査 ●採用試験情報 後期就活セミナー ●キャリア就職ガイダンス ●就活マナー講座 ●エントリーシート対策 ●教員採用試験説明会 ●面接試験対策 ●公務員採用試験説明会 ●Uターンガイダンス ●合同企業説明会 ●内定者体験報告会 ●面接試験合宿セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> 就活フォローアップ講座 ●キャリア就職ガイダンス ●会社説明会フォローアップ ●選考書類フォローアップ ●面接試験フォローアップ ●筆記試験フォローアップ ●就活力フォローアップ 	
<p>本学の学生を求めて参加した企業による合同企業説明会を開催</p>	<p>卒業後のサポート</p>		

保護者が気になる 就活の現状Q&A

地区別父母懇談会などで、多くの保護者の方からご質問を受ける項目について、また、保護者と学生の関わり方などについて、学生支援本部キャリア就職担当・卒業生支援担当の関喜義部長に伺いました。

“人財”を求めている企業、万全の対策で

Q 現時点での就職状況はどうなっているのでしょうか？

A 内定率は、昨年とほぼ同じ割合です。昨年場合は最終的に92%に達しました。今年度もおそらく同様の数値が見込まれると予測しています。ただ油断は大敵です。企業が求めているのは人材=“人財”。財産です。そのため、予定の採用人数に達しなくても、選考基準に満たない場合には、そこで採用を打ち切ってしまう。つまり大学入試のような定員は設定されていません。だからこそ万全の対策で臨む必要があります。



マナーなど家庭だからこそできる支援を

Q 本人の就活に親としてどのように関わったらよいのでしょうか？

A ポイントは3つあります。1番目はとにかく正社員として就職してもらうよう働きかけてください。ありがちなのが「また来年頑張ればいいさ。それまではフリーターで…」という“逃げ道”を用意することです。フリーターから正社員になるのは至難の業。事実上不可能だと思ってください。2番目はせっかく内定した企業を「そんな会社聞いたことがない」と否定しないことです。本人はさまざまな方法で企業を調べ、実際に足を運んで面接に臨み、担当者とも直接話をするなど、その企業全体を五感で感じ取っています。親御さんが知らない優良会社は、たくさんあります。ご自分の子どもを信頼することが何よりも大切です。そして3番目が、過干渉、そして無関心にならないことです。とはいえ親御さんが支援できることはたくさんあります。例えば就活の前提となる挨拶、電話やメールの仕方といった大人としてのマナーをはじめ、常識的な服装や身だしなみのアドバイスをすること。加えて将来設計の構築や「職業観」の意識づくり、相手に自分のことや考えを的確に伝える能力、熱意・誠意を伝える習慣を養っていくための「家庭内コミュニケーション」もとても大切な支援といえるでしょう。



大学の学生と保護者のために制作している就職関連の冊子

社会を知る絶好の機会、課題を持って参加を

Q インターンシップの経験は有利なのでしょうか？

A 神奈川工科大学では授業のキャリア系科目にインターンシップ(選択・2単位)を位置づけているほど重視しています。学生にとっても仕事を通して、マナーなど社会人として必要な素養をはじめ、企業の本質、さらには社会そのものを肌で知る格好の機会です。また企業側もその学生を知るよい機会と捉えています。ですから大切なのは、ただ漠然と参加するのではなく、例えば機械設計を専門とする学生ならば、設計という分野は製造業の中でどのように位置づけられ、具体的には他のセクションとどう関わり合いながら仕事が進められていくのか。事前に知りたいことを整理するなど自分なりに課題を持って参加したいものです。

家庭が協力して、Uターン就職の成功も

Q 将来は地元に戻ってほしいと思うのですが、Uターンはどうでしょうか？

A 内定者を対象としたUターン状況調査では、Uターン率は平成22年度から24年度まで順に30.5%、34.0%、25.6%となっています。しかしこれはあくまでも出身地ベースで集計したもので、Uターンを希望していない学生も含まれています。Uターン就職で大切なことは、何よりも親御さんの協力です。どのような地元企業が新卒者を募集しているのか、人脈も含めて採用情報をこまめに収集し、それをもとに親子できちんと話し合うなど、一緒に就活を行うことが求められます。ただし親御さんが心配のあまり勝手に会社に電話するなど出過ぎることは禁物です。企業が「この学生は自立していない」と判断してしまうため、細心の注意が必要です。



「頼らずに、卒業までに就職」が大前提！

Q 神奈川工科大学では卒業後も就職未定者に就職支援を行っていると同っていますが。

A 「学生を無事に社会に送り出すまでが大学の使命」と考えていますので、確かに平成22年度から就職未定者を対象に卒業後も引き続き就職支援を行っています。平成24年度の本学新卒内定率92.0%に対し、未定者の卒業1年後就職決定率は78.7%です。ただ、就職が未定の既卒者に対して企業はどうしても、なぜ在学中に就職が決まらなかったのか？何か問題があるのではないかとという目で見えてしまいがちで、決めるためには想像以上の努力が必要です。卒業後の就職支援システムはあくまでも最後のセーフティネット。就職は卒業までに決めることが大前提となります。

決して楽ではない就職戦線ですが「ご家庭と大学が協力し合い、就職を希望する学生全員が決まることを目標にしています。」と関部長は呼びかけます。

卒業生の活躍

本学卒業生は様々な分野で活躍しています。

多くの卒業生が希望の企業へ就職し、そこで立派に活躍しています。大学生活でのこと、現在の仕事は？また将来の目標や、本学学生へのメッセージなどを3人の卒業生に伺いました。



株式会社本田技術研究所 勤務
石尾 隼 さん ISHIO Jun

神奈川県出身 1983年生まれ
2006年3月工学部システムデザイン工学科卒業
(現:自動車システム開発工学科)
2008年3月大学院工学研究科機械システム工学専攻博士前期課程修了
2008年4月株式会社本田技術研究所入社
四輪R&Dセンター第11技術開発室第2ブロックに勤務

自動車開発の研究を通して、人間性をも高めていきたい

<大学生活はいかがでしたか？>

石尾さん: 学部3年次の3月、某研究室のゼミ発表会に参加。この日、生涯の恩師とめぐり合い、「自動車の運動と制御」という研究テーマに惹かれ大学院への進学を決意しました。恩師との出会いがあったからこそ、今の自分があると強く感じています。

<現在、どのような仕事をなさっていますか？>

石尾さん: 四輪の研究・開発部門で、要素技術の研究や完成車両の性能設計を行っています。入社時に「自動車の運動と制御」を自分の核と位置付け、幅を広げようと考えました。

<仕事の魅力をお聞かせください>

石尾さん: 多くの人が携わる自動車開発という、一人では達成できない大きな夢を皆で実現する機会に恵まれており、自分の可能性を広げられる魅力的な仕事です。

<将来の目標をお聞かせください>

石尾さん: 技術者としての知識・経験を深め、独自の着想を持って発信できるようになることが目標。さらに専門性を深めながら、自分の芯を確立し、人間性をも高めていきたいです。

<本学の学生にアドバイスをひと言お願いします>

石尾さん: 一歩踏み出す勇気を持って、自らの道を切り開いていきましょ!

学生時代の石尾さん

「行動しないとチャンスは来ない」

スポーツにかかわりたいという中高からの夢を断念。数学が好きという理由で理系を選択し、大学入学後は、無我夢中で勉強しました。自分自身と向き合う、模索の時期でもあったと思います。



株式会社八重樫本舗 勤務
鈴木 恵里奈 さん SUZUKI Erina

秋田県出身 1991年生まれ
2013年3月応用バイオ科学部応用バイオ科学科卒業
2014年4月株式会社八重樫本舗入社
営業開発本部研究開発部に勤務

念願の化粧品会社「研究職」に就き、歩み始める

<本学への進学理由と、大学生活についてお聞かせ下さい>

鈴木さん: 高校の「生物」の授業が面白く、バイオに興味を持ちました。本学ではバイオの勉強が面白そうだったのと、スカラシップ適用で、授業料が半額になったのも魅力でした。アンチエイジングに関する研究室で卒業研究を行い、そこでの人間関係が素晴らしいです。研究室では月に1回スポーツ大会があって、私はイベントの企画係で頑張りました。研究は大変な場面も多いですが、仲間との結束力で乗り切れました。

<八重樫本舗に入社した理由は？>

鈴木さん: 化粧品業界に行きたいと思いました。八重樫本舗の親身になってくれる社風に魅かれたのと、先輩方が何人かいらしたので、「研究職」を目指して挑戦しました。

<仕事内容と将来の目標をお聞かせ下さい>

鈴木さん: 入社し、研修を経て9月に「研究開発部」に配属。今は一日も早く一人前になることが目標です。将来は、あらゆる開発ができるようになって、人気商品を手がけたいです。

<本学の学生にアドバイスをひと言お願いします>

鈴木さん: 卒業研究は「大変だ」と思わず、その中を楽しみを見つけながら日々励んでほしいと思います。頑張ってもやり過ぎた経験は、社会に出て必ず活かされるはずです。

学生時代の鈴木さん

「施設・環境が充実。やりたいことができた大学生活」

研究室で月に一回「スポーツ大会」を行っています。全員でバスケットボール、バドミントンなどを楽しみます。研究室の先生はスポーツが好きでタフ。研究にも体力は不可欠です。



KDDI株式会社 勤務
田村 一城 さん TAMURA Kazuki

大阪府出身 1984年生まれ
2008年3月工学部電気電子工学科(現:電気電子情報工学科)卒業
2008年4月KDDI株式会社入社
コンシューマ首都圏第二営業部に勤務
(コンシューマ横浜第一支店主任)

大学で学んだことを活用できる仕事にも挑戦したい!

<本学への進学理由と、大学生活についてお聞かせ下さい>

田村さん: になりたい職業がいろいろあったので、一番必要な分野の根本の電気を勉強しよう。本学のパンフレットに、大学の勉強が社会のどこで役立つかの道筋が理解しやすく掲載されていて進学しました。また、「花影荘」での寮生活が印象的。上下関係が厳しい寮でしたが、有益な経験でした。

<現在、どのような仕事をなさっていますか？>

田村さん: 代理店対象の(間販)営業職をしています。入社早々は、量販店やショップの店頭への営業だけでしたが、現在はいくつもの代理店本部を担当しています。

<仕事のやりがいと将来の目標をお聞かせ下さい>

田村さん: 自分が直接商談をかけ、動いただけ結果となって返ってきて、すぐに売上額の数字に表れるので、これが大きな醍醐味でモチベーションが上がります。将来は、大学時代の勉強を活かして、CMを担当したり、携帯ネットワークを監視する「通信の縁の下の力持ち」のような部門で、電気工学・通信工学を活かした仕事に挑戦したいです。

<本学の学生にアドバイスをひと言お願いします>

田村さん: あくなく挑戦して下さい。学部学科の垣根を越えて多くの人達と交流し、コミュニケーション能力を磨くのも挑戦です。経験は無駄にならず、必ず生きてきます。

学生時代の田村さん

「笑顔を決めず、気取らず、いつもの自分」

ただ着々と単位をとるだけではなく、何が身に付いたのかを考えながら先に進むことが大切です。また、得意分野を一つでも持つと自信につながります。私は音楽、携帯、通信、パソコン、これらは負けないです。



希望の就職を実現した先輩たちのキャリアストーリー

「Career Story」

大学進学目的は違っていても、大学生活を充実したものになりたいという思いは、皆同じです。その実現には、個人の強い思い、あるいはチャンスを活かす感性と行動力が必要になるのです。この情報誌には、先輩が残したたくさんのストーリーが紹介されています。充実した大学生活を過ごし、夢と自分の良さを活かした仕事に就く。この情報誌がそのきっかけとなればそれに勝る喜びはありません。

※「Career Story」の送付をご希望の方はお送りいたします。右記までご連絡下さい。 神奈川県立川崎大学企画入学課 / E-mail: kikkaku@kaiit.jp Tel: 046-291-3002

授業紹介

体験型学習科目「機械工学プロジェクト」<テーマ：エンジンの分解・組立>

前号(No.171号)では「機械工学プロジェクト」全般について説明をしましたので、今回はテーマのひとつである「エンジンの分解・組立」について紹介します。

このテーマの目的は、(1)小型ディーゼルエンジン(単気筒、4ストロークサイクル)を分解し、そこに使用されている各部品(機械要素)の構成と作用を知ること。(2)分解した各部品を実際に見て、触れて、部品の仕上げの状態や構造の違いを体験する。機械には設計者の思想と工夫が満ちあふれており、その先人の知恵に触れること。(3)分解した部品を組み立てて、元どりの機能を発揮できるようにして、小型ディーゼルエンジンの構造と作動原理を理解すること。

としております。なお、使用されている主な機械要素として、ボルトやナットなどのねじ、歯車、軸受およびカムが挙げられます。実際にその機械要素に触れたり、エンジンの構造や作動原理を学ぶことで、2年次以降に勉強する機械設計法、材料力学、熱力学、加工学および材料工学などの専門科目の導入教育としての役割を果たしています。

また、8月17日に開催されたオープンキャンパスでは10数名の高校生が参加して、機械工学科の授業体験のひとつとしてこの「エンジンの分解・組立」が行われました。1時間余りの限られた中で、実際のものに接しながらエンジンの仕組みを学び、測定器の使用方法などについて実習し、ものづくりにおける機械工学の役割について説明がなされました。(文責:機械工学科助教/吉岡孝和)



エンジンの分解・組立の授業の様子

客員研究員滞在記 ~Porto大学PhD学生が機械工学科に客員研究員として滞在~

Portoは古くからポルトワインで有名なポルトガルの港町です。ポルトワインは通常のワインと異なって、5年、10年、20年以上と熟成させ、アルコール度が20度以上にもなり濃厚な甘い味わいと香りがあることから世界的にもファンが多く、数万円から高級なものは数百万円にもなり、特に英国王室にはそのコレクションがあるとされており、このPortoにポルトガル最大の国立大学のPorto大学があります。同大学院博士課程3年のPedro Montenegro氏は、ポルトガルで高速鉄道建設の計画があることから「高速鉄道の振動現象の解明に関する研究」を学位論文のテーマとして行ってきましたが、新幹線の高速走行時の振動現象の解明の研究を行っている田辺研究室のもとでの研究を希望したことから、本学機械工学科に、本年1月から5月までの5か月間、客員研究員として滞在しました。

滞在先の田辺研究室では、当初は学生たちは英語を話すのをためらっておりましたが、コミュニケーションが大事なので、完全な英語でなくてもよい、日本語が混じってもよい、手真似でもよいと励ますと、学生たちは気楽になったようで、日常のあいさつにはじまり、様々なコミュニケーションが生まれました。実際、研究室でのPedro氏の歓迎会では、学生たちは英語で自己紹介し、質問に対しても様々な言葉や表情を交えて積極的に答えておりました。

3月の下旬に、図書館に新しくできたアクティブラーニングルームを使って、「Simulation for Railways」(鉄道のシミュレーション)のミニシンポジウムを開催しました。院生全員(4名)と、選抜の卒研究生2名、Pedro氏、情報センターの藤井先生が、日頃の研究成果の発表を英語で行いました。学生たちは最初はやはりためらっておりましたが、英語でやるしかないという覚悟を決めてからは、ひるまず果敢に発表し、情報交換ができて大変おもしろく有意義でした。またその後の懇親会では、研究室の名シェフ斉藤君のレシピで、本格的な3種類(シーフード、ビーフ、ポーク)のお好み焼き(鯉節とのりとマヨネーズ付き)を、熱力学と機械英語実習と称して共同で作成し、アルコールも入って学生の英語も滑らかになり盛り上がりました。

Pedro氏は予定の研究を無事終了し5月に帰国しましたが、本学でお世話になったことを感謝し、本国から取り寄せたポルトガル国旗を小宮学長に、また研究室にも学生全員の名前

を漢字で書いたポルトガル国旗を寄付けてくれました。

Pedro氏は鉄道に興味を持っていることから、帰国前の最後の日曜日、日本滞在中の思い出に日帰り箱根旅行に招待しました。小田急鉄道、箱根登山鉄道、ケーブルカー、ロープウェイ、芦ノ湖の海賊船と様々な乗り物を体験でき、箱根町で5種類の新鮮な刺身がのったおいしい豪華海鮮どんぶりを食べ、また美しい自然の中で火山と満開の山桜も見れば大変喜んでおりました。

Pedro氏の滞在中、研究室国際派の大須賀君(大学院生)による成田での出迎えから始まって、研究室が国際的になり、毎日のあいさつ、日常交流、歓迎会、送別会、シンポジウムなどを通して、学生たちは度胸ができ、英語、ポルトガル語、日本語などの様々な言葉やボディランゲージを通して、外国語が国際的なコミュニケーションに役立つことを実感し、また必要にせまられば自分たちも交流ができると自信になったようです。

帰国後の6月にギリシャのKos Islandで高速鉄道の国際会議があり、Pedro氏と1か月ぶりに再会できましたが、そこで本学での研究成果を含めて立派な講演をしました。本学での様々な暖かな歓迎にお礼を述べ滞在は大変有意義であったとあらためて感謝しておりましたので、本人に代わりお世話になりました御関係の方々にお礼を申し上げます。

(文責:機械工学科教授/田辺誠)



小宮学長にポルトガル国旗を贈呈



贈呈のポルトガル国旗の前で研究室勢揃い



箱根登山鉄道の車内

「鳥人間コンテスト2013」で機械工学科の学生が活躍!

7月27日、28日に滋賀県彦根市の琵琶湖松原水泳場で「Iwataniスペシャル鳥人間コンテスト2013」が開催されました。昨年に続き、「みたかもばらアドベンチャーグループ」と、本学のサークル「新鳥人間プロジェクト」のメンバーおよびOBの合同チームで参加し、猛暑の中、大会本番では素晴らしい飛行がなされ、大会記録460.07mを飛行。滑空機部門で見事、優勝しました。同チームは、昨年に続き滑空機部門2連覇です。また、大会の様子は、9月4日に読売テレビ・日本テレビ系全国ネットでTV放送されました。

同メンバーは、7月13日には、早朝5時から大学のグラウンドでテストランを行いました。テストランでは、主にプラットホーム上で離陸するまでの練習と、本番時に機体を現地に運んで組み上げるまでの練習を兼ねていました。

プラットホームから離陸するまでは、パイロット1人で飛び立つのではなく、3人の補助者が機体の各部分(右翼・左翼・テール)につきまします。一方、プラットホームでパイロットが機体に乗り込むまでは、パイロットや補助者の体力の消耗を防ぐため、駐機場からプラットホームまでの間は、他のメンバーで機体を保持する必要があります。これらはタイミングを伴い、本番にいきなりできるものではありません。そのため、平地で機体を保持した状態のまま、走る練習を行いました。また作り上げた機体の各部分のチェックも行い、練習中に不具合が生じた部分の修復をKAIT工房で行いました。

同大会を終えて、チームの代表である、機械工学科3年山本美有紀さん(新鳥人間プロジェクトKAIT600代表)は、「私自身、2度目となる大会でしたが、学ぶことの多い大会でした。今回初めて大会に出た学生メンバーも大木さんのフライトや、現地で、みたかもばらさんの作業の様子、他大学のチームの様子をみて、何かを学び、感じたようです。2年間、みたかもばらさんと一緒に活動できたこと、本当に感謝しています。大会後は、私たち学生チームのみでの活動になり、少しずつですが来年の出場に向け、動いています。これまで学んだことや自分なりに考えたことをどう活かすか、そしてチームの活動をいかに次に繋いでいくかが今後の課題です。まだまだ未熟なチームですが、今後とも応援をどうぞよろしくお願い致します。」と喜びの感想を話しました。(※関連記事を本誌裏表紙に掲載)



写真提供 ytv



飛行練習とKAIT工房内の作業の様子



チームメンバーの皆さん

電気電子情報工学科

学部3年生が企業との共同開発プロジェクトに参加

平成25年度から板子研究室でスタートした企業との共同開発プロジェクト「燃料電池を用いた移動型電源装置の開発」に研究室学部3年生の座間竜也さん、富樫蓉さん、松浦友貴さんがメンバーとして参加し、共同開発企業と共にミーティング・プレゼンテーションを行い、精力的に活動を行っています。本年度中に製品化に向けて試作器を開発し、実証試験を行う計画となっています。内容は、燃料電池を高効率で制御するMEPT制御を組み込んだ電源装置の開発です。これが実現すると、非常時や電源の届かない地域で長時間電源を確保することが可能になります。

プロジェクトに参加している座間さんは、「このプロジェクトは、普段大学ではなかなか学べないコストを念頭に置いた回路設計や、ヒューマンインターフェースの設計など、いろいろな要素を含めた実践的な取り組みを直接体験することが出来、今後の就職活動にも役立つと思います。」と話し、富樫さんは、「企業のみなさんとのディスカッションによって、コミュニケーション力が鍛えられます。」と感想を述べ、松浦さんは、「私は教員志望ですが、製品の内容を全てのユーザに分かりやすく説明するというスキルを教員になってからもうまく生かせたらと思いました。」とそれぞれ期待を膨らませています。

(文責:電気電子情報工学科教授/板子一隆)



プレゼンテーションの様子

「JPCAショー2013」に出展をしました

6月5日から7日まで、東京ビッグサイトで開催された「JPCAショー2013 (第43回国際電子回路産業展)」(3日間来場者数延べ115,000人)に、電気電子情報工学科小室研究室として出展を行いました。

展示には共同研究を行っている企業の方にもご協力いただき、社会の役に立つ研究を進めていることを強くアピールするものとなりました。そのため会期終了後も、日ごろはお話をする機会のない社会人技術者の方々から、多くのお問い合わせをいただき、大変有意義な体験となりました。

さらに同会場内のアカデミック・プラザにおいて、博士課程後期の齋藤靖弘さんが自身の研究成果に関して短い講演を行いました。活発な質疑応答がなされ、産業界からの関心の高さを感えています。

(文責:電気電子情報工学科教授/小室貴紀)



初日開場前の展示ブースの様子



アカデミック・プラザにおける講演

電気電子情報工学科 第1回全学年懇親会を開催

「本学科の全学年の学生が一堂に集まる懇親会をやりたい!」との声が出たのが今年の4月。その後、学生有志が幹事となり、6月25日の5限目に第1食堂に、170名以上の参加者を集め、記念すべき第1回の「タテコン」を開催することができました。

未成年も参加しているので、ソフトドリンクとお菓子を中心としたパーティーになりましたが、全学年混合の賞品争奪戦となったビンゴゲームは大いに盛り上がりました。なお、賞品は学生幹事が各先生方を個別に訪問してお願いし、無償で提供していただいたものです。

今後は、この「タテコン」を、本学科の新たな伝統行事として、発展・定着させていきたいと考えています。

(文責:電気電子情報工学科教授/小室貴紀)



大盛り上がりだったビンゴ大会



満員になっている会場の様子

母校の「先輩と語る会」に呼ばれて

電気電子情報工学科4年 石川 直人(中津原研究室所属)

5月31日、私は平成22年度に卒業した群馬県立前橋工業高等学校に進路指導の講師として呼んでいただき、自分の経験や、当時考えていたことなどを母校の後輩たちに伝えてきました。その際の後輩たちの進路に対する態度にとても感心しました。後輩たち一人ひとりがとても真剣に話を聞いていて、私や講師たちの話から、何か自分のものにできないかと必死にノートを取る姿に感銘を受け、自分の母校の学生は目標に向かってしっかりと努力ができると感じました。またこのような素晴らしい機会を与えてくださった母校の恩師と快く送り出してくださった中津原教授には感謝の意を表します。



後輩の前で体験などを語る石川さん

応用化学科

第7回燃電コンを開催

毎年恒例の「燃電コン」が今年も8月17日にKAIT工房で開催されました。今回で第7回を数える「燃電コン」は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の支援のもと、本学で主催している燃料電池のコンテストです。燃料電池は、水素やアルコールと酸素を反応させてエネルギーを得る電池で、近年、開発が盛んに行われています。

今年の参加者は23名でした。参加した全7チームは、応用化学科の伊熊研究室で用意された材料を用いて、あらかじめ燃料電池を作製しました。この電池では、白金のペーストをカーボンペーパーに塗布する工程があり、この出来・不出来が燃料電池の性能に大きく影響します。実際のコンテストでは3種類のエタノール製品（工業用エタノール、焼酎、日本酒）を用いています。それぞれのアルコール製品について、3～5%のエタノール水溶液となるように溶液を作製して燃料電池に注入し、燃料電池の完成です。この電池をモーターにつなぎ、そのモーターの回転を利用して、ミニ自動車のけん引時間を3回測定しました。より重いミニ自動車を、より速くけん引したチームから予選の順位をつけていきましたが、今年は回を重ねるにつれてけん引時間が短くなり、燃料電池の性能が良くなったようです。上位4チームでさらに時間を競う決勝戦を行った結果、優勝は「S. C. O. U.」（長野工業高校）、2位は「チームハクロ」（神奈川工科大学）、3位は「工化2年」（長野工業高校）でした。これらチームには賞状と賞品が贈られました。優勝したチームのS. C. O. U.は、「燃料電池を丁寧に、また、しっかりとネジ締めを行ったことが勝因だと思います。昨年も参加しましたが、最下位だったので今年は優勝できてうれしいです」と、優勝した感想を話しました。

2年続けての参加で、優勝の運びとなったようです。参加したチームの皆さん、ありがとうございました。来年も参加してください。



毎年、参加者が増えている燃電コン

～地域交流～ 小学生との環境学習 「生き物観察会」を行いました

8月20日、小学生を対象とした「夏休み中津川生き物観察会」が行われました。これは、NPO法人神奈川県環境学習リーダー会と本学主催、厚木市教育委員会の後援、神奈川県水源環境保全再生市民事業による支援のもとに行われた、川の中の生物を採取、観察するイベントです。環境学習リーダー会や本学科の高村教授と客員教授の石綿教授が中心となって、準備から実施を行いました。夏休みももうすぐ終わりという時期もあって、約60名の厚木市内の小学生の応募がありました。残念ながら、抽選で全員参加することはできませんでしたが、当日は34名の小学生と一部の父兄の参加となりました。朝9時30分に大学に集合して、バスで中津川スポーツ広場に移動。さっそく水生生物の採取です。初めは川に入るのをためらっていた小学生たちも、そのうち、全員が川の中で生き物を見つけることに夢中になり、時間が経つのも忘れるほどでした。川の中には様々な生物がいて、魚だけでなく、石の下に様々な虫がいたり、草陰にエビがいたり、いろいろなことを体験でき、楽しい時間が過ぎました。最後は大学に戻って、生き物のもう少し詳細な観察や水質調査などを行いました。まだ採取しなかったのか、小学生からは「もう終わりなの?」という声や「また来年も来たい」「楽しく過ごせました」と様々な声がありました。また来年も一緒に観察会を行いたいと思います。



有意義であった生き物観察会の様子



協定校サウスシアトル・コミュニティカレッジ講師による 「国際化学実験」

卒業後、海外に出張などで滞在をして仕事をする機会がますます求められていますが、応用化学科では語学習得や英語で化学を学ぶいくつかの機会を設けています。これらは、学生自らがアメリカへの短期留学する科目「海外化学研修ⅠⅡ」と、ネイティブスピーカーを招いての化学実験科目「国際化学実験」になります。

大学も夏休みに入ろうとしている8月6日から4日間、米国ワシントン州のサウスシアトル・コミュニティカレッジからステファニー先生をお招きして、「国際化学実験」を指導していただきました。今年は、1年生6名、2年生8名、3年生8名の合計22名の学生が参加し、「光る物質の合成」や「食用サラダ油からバイオディーゼル燃料への化学反応」などのユニークな実験に取り組みました。

この実験では、実験内容や操作の説明、テキストは、すべて英語で実施されます。当初は先生からの「薬品Aと薬品Bを混ぜましょう」などの説明を、一つも聞き逃さないように緊張して耳を傾けていた学生も、一緒にランチに行ったあとは、積極的に先生に英語で質問していました。普段耳にしている「天びん」や「ピンセット」も、英語では全く違う呼び方をすることに戸惑いつつも、新たな発見が楽しく、活き活きと実験をしていました。中には、思ったように先生と会話ができないことが悔しく、英会話の必要性を肌で感じていた学生も見受けられました。

学生時代の異文化との交流は、人生の財産になります。次は短期留学科目「海外化学研修Ⅰ」や「海外化学研修Ⅱ」にも、ぜひトライしてほしいと思います。



国際化学実験に参加した1年～3年生までの学生

1年生の合同クラス会を開催

前期の終了も近づいた7月10日、応用化学科の1年生全体クラス会が、学内の第2食堂で行われました。参加した60名の1年生に加えて、クラス担任の応用化学科教員も一堂に集まり、これだけの人数が集まるのは、フレッシュヤーズキャンプ以来とあって、始まる前から皆、話がはずみ、参加者全員が楽しい時間を共有することができました。

普段はあまり話す機会がない学生同士も、お菓子をつまんで談笑にも花が咲きます。クラブ・サークル活動のこと、始めたばかりのアルバイトのこと、車の免許をとりようとしていること等、話題は尽きないようです。中には2週間後に控えた初めての定期試験が気になる学生もいるようで、教員にしきりに質問する学生もいました。

最後には、皆で集合写真を撮って楽しくクラス会を終了しました。入学した直後は、皆が知らない仲間同士でしたが、前期の4か月間で同級生の顔と名前を覚えることができたと思います。



厚木北高校との連携実験を実施

7月9日、10日の2日間にわたって、近隣の神奈川県厚木北高校の生徒を対象に、実験体験教室を行いました。この実験体験教室では、応用バイオ科学科、ホームエレクトロニクス開発学科の協力のもと、様々な実験プログラムを2日間にわたって、高校生に体験してもらうもので、今年で4回目の開催となります。同校2年生の理系クラスの生徒77名が各実験コースに分かれて、2つの異なった実験を体験しました。実験プログラムは延べ20項目ほど用意してありましたが、高校生にとっては実験タイトルに興味を引くものや、そうでないものと様々な第一印象だったようです。しかし、いざ実験を体験すると、どれも非常に興味深く、普段では体験できない実験内容に大満足の様子でした。この実験プログラムは、また来年度以降も開催していく予定です。



熱心に実験に取り組む高校生たち

自動車システム開発工学科

「EVエコランプロジェクト」がワールドグリーンチャレンジ2013に参戦 栄えある特別賞「ベストコンセプト賞」を受賞!

EVエコランプロジェクトが秋田で開催されたWGC2013(7/24-7/27)のグリーンフリー部門に参戦しました。家庭用植物油を用いてディーゼル発電し、その発電した電気で走行するシリーズハイブリッド電気自動車です。車両のキャッチフレーズは「植物油で走る電気自動車」です。

震災時等に化石燃料がなくても、電気が来なくても、天ぷら油があれば走れます。砂漠地帯でも、走ることができます。2011年3月11日の東日本大震災の時に、被災地で家庭用植物油で車を走らせてほしいとの要望で実現した車です。競技委員の方から、歴史を作りましたね、とも言われました。

グリーンフリー部門は、走行競技だけではなく、プレゼンテーションも行います。大学院生が会場の皆さんから喝采をいただくような素晴らしいプレゼンテーションを行いました。競技中も、ビットに車両が入ってくる、一斉に全員が一瞬になって作業をします。素晴らしい光景だと思います。また、卒業生も応援のため、駆けつけてくれました。

大学院生から1年生までの大勢のチームメンバーが製作から努力して、競技会での走行を実現し、栄えある特別賞の「ベストコンセプト賞」を受賞しました。プロジェクトチーム活動を通して、メンバー全員が成長していくのを実感できた大会となりました。

(EVエコランプロジェクトファルティアドバイザー 自動車システム開発工学科教授/高橋良彦)



ビットの様子 大学院生のプレゼンテーション 特別賞を受賞! 卒業生も交えての集合写真

<遠征参加メンバー>

大学院生: 2年生/坂口正樹さん、佐々井博哉さん、1年生/松本 亮さん
 学部生: 3年生/嘉成大典さん、日高 庸さん、前原直道さん、2年生/甲斐公太郎さん、富岡徐以さん、山谷祐樹さん、村上善行さん、小笠原車也さん、須和孝平さん、高谷一成さん、内田光宣さん
 卒業生: 山口 悟さん、今里 諒さん
 非常勤講師 西村一郎先生
 自動車システム開発工学科教授 高橋良彦

<製作支援メンバー>

学部生: 4年生/人見剛義さん、伊藤順平さん、内田幸平さん、浦部 良さん、眞野和輝さん
 1年生/池元建斗さん、若永拓哉さん

<大学待機教員>

自動車システム開発工学科准教授 宇田和史

「第19回流れのふしぎ展」を開催

流れのふしぎ展実行委員 飯田 匠(大学院機械システム工学専攻博士前期課程2年・石綿研究室)

8月13・14日、東京都江東区の日本科学未来館で日本機械学会流体工学部門主催、神奈川工科大学共催の「第19回流れのふしぎ展」を開催しました。同イベントは空気や水といった流体を使い、身の回りの現象などを体感できる体験型展示やウィンドカーコンテスト、工作教室、科学教室が行われ、実際に「流れ」を見たり触ったりすることで「なぜ?」「どうして?」と感じてもらい、子供から大人まで広い世代で科学に興味を持ってもらうことを目的としています。また、今年から新たに始めたAR (Augmented Reality: 拡張現実) もなかなか好評のようでした。今年は平日に開催することになったにもかかわらず、多くの方々にお越しいただきました。

私もスタッフとして体験型展示を担当していたのですが、たくさんの子供たちに体験してもらい、「面白い!」「なぜ?」の声をたくさんいただきました。中には親御さんの方が夢中になっていた方もいましたが、親子が一緒になって楽しむということは、大変素晴らしいことだと思います。

体験展示のスタッフを担当してみて、説明をどうしたらいいか、楽しんでもらうにはどうしたらいいかなどさまざまな不安もありましたが、事前準備やスタッフとの打ち合わせなどを経て、当日に挑みました。子どもたちの元気な声でこちらも元気になり、スタッフと来場者、共に楽しい2日間となりました。他のスタッフたちに話を聞いてみると「楽しかった、またやりたい。」という声がとても多かったです。私もぜひ来年も参加したいと思いました。

<第19回流れのふしぎ展実施報告>

(参考: <http://www.jsme-fed.org/contests/Nagare-Fushigi2013/index.html>)



9件の学術発表と共同研究成果

本学科では自動車に関連する幅広い研究が行われていますが、5月22日~24日、パシフィコ横浜で開催された自動車に関する国内最大の学術講演会において、発表件数で大学トップレベルになる9件の発表を行いました。また、併設の「人とくるまのテクノロジー展:自動車技術展」には3日間で7万8千人が訪れ、本学と共同研究をしているNTN社のブースで、研究車両と安部・狩野研究室の研究成果を展示しました。教員と大学院生が行った学術講演の内容を講演順に紹介します。(発表者敬称略)

「ANALYTICAL AND EXPERIMENTAL STUDY OF HIGHFREQUENCY WAVE PROPAGATION ON TIRE SURFACE」

Masao Ishihama・Takayuki Kagaya・Junya Wachi(Kanagawa Institute of Technology)
 道路騒音を支配するタイヤ放射音を発生するタイヤ表面上を伝搬する高周波振動波を、加振実験と有限要素法で解析した。トレッド上を伝播する曲げ波の群速度を実験的に捉え、これをシミュレーションで再現し、タイヤ構造各要素の寄与度を量的に求めた結果、トレッドを締めているベルトの影響が大きいことが明らかになった。

「すべりによるタイヤ消費エネルギーに及ぼすタイヤ力配分制御の効果」

中嶋 聡二・小山 亮・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)、水貝 智洋・松岡 大輔(NTN)
 各タイヤの前後、横力の合計8つの変数を制御対象として、平面2自由度モデルの車両応答を満たしつつ、すべりによるタイヤ消費エネルギーを最小化する配分制御とタイヤの負荷率を最小化する配分制御を提案した。シミュレーション及びFull-Drive-By-Wire-Electric-Vehicleを用いた実車実験ですべりによるタイヤ消費エネルギーの観点から評価を行った。

「Full-Drive-By-Wire-EVを用いたタイヤ力配分制御による車両運動制御」

鈴木 雄大・吉村 達矢・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)、桜井 良・茂木 克敏(NTN)
 4輪独立駆動および4輪独立ステアが可能な8つの自由度を持った実験車両を開発した。この車両を用いてタイヤ負荷率が各輪に均一になるようタイヤ力を配分し、車両限界性能を向上させる運動制御を提案する。制御の効果はシミュレーションと実車で検証した。

「ネットワークドライビングシミュレータを用いた交差点右直事故の分析」

佐々木 裕泰・安東 剛志・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)
 ドライビングシミュレータをネットワーク接続し、インタラクティブな状況下での自動車と二輪車両の交差点右直事故を再現し分析した。その結果を二輪車両があらかじめ行動が確定されたシナリオ車両であった場合と比較し、右直事故分析における有効性を確認した。

「基礎的車両応答パラメータと操舵特性評価に関する研究(第2報)」

鈴木 崇永・宮本 勝祥・富田 篤志・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)
 基礎的な車両応答パラメータである固有振動数及び減衰比とヨーレイトの位相進み時定数を組み

合わせて変更し、これら応答パラメータとドライバーの操舵特性評価の関係について、ドライビングシミュレータを用いて実験し、簡易的なドライバモデルにより評価した。

「模擬車両によるロール傾斜がドライバ操作感覚に与える影響」

漆崎 直之・内山 徹哉・佐々木 裕泰・小山 亮・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)
 純粋にロール傾斜のみを変えさせることの出来る車両を設計・製作し走行実験を行った。その結果からロール傾斜の変化がドライバの操作感覚に与える影響について検討した。

「ステア・バイ・ワイヤの操舵反力要素が操舵特性に及ぼす影響」

三木 大輔・日比 元明・新木 亮汰・狩野 芳郎・安部 正人(神奈川工科大学)
 操舵反力に含まれる弾性要素、摩擦要素、減衰が操舵特性に及ぼす影響について、ドライビングシミュレータを用いたレーンチェンジ走行を行い、操舵角入力ドライバ/操舵モデルのパラメータ同定による評価手法を用いて評価した。

「前2輪独立駆動3輪車の操舵基本特性解析」

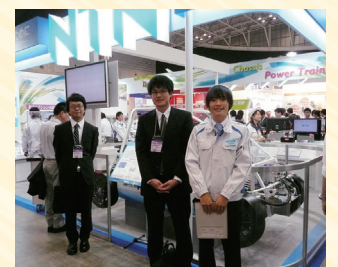
久保 聡之・石濱 正男(神奈川工科大学)、勝矢 晃弘・川崎 公一・上津原 才司(日本発条)、田中 清文・千葉 一雄(日本エレクトライク)
 市街地に適した、前2輪、後1輪の三輪EV用サスペンションの研究を行った。安定した旋回に必要な各輪の特性を車両運動解析により検討し、部品数を最小化するように板ばねをリンクに含むマルチリンク式懸架装置を考案した。これにマルチボディダイナミクスを用い、最適なリンク配置やばね剛性設計手法を開発した。

「SOUND QUALITY DESIGN OF ENGINE LUBRICATING SYSTEM」

Shota Kurihara・Masao Ishihama(Kanagawa Institute of Technology)
 問題となることの多いエンジン潤滑油循環ポンプの音質悪化原因の一つが、ポンプ吐出圧力脈動波形のうなりにあることを実験的に突き止めた。この現象を油圧系を機能ごとに分解した数理モデルを構築し、その時刻歴応答計算で再現した。この結果、圧力制御弁の急激な開閉が音質悪化要因の一つであることを明らかにした。



NTN社との共同研究成果の展示



NTN社の方と安部研究室の学生

ロボット・メカトロニクス学科

「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2013」に出展

7月26日・27日に「パシフィック横浜展示ホールD」で開催された「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2013（通称：ヨッテク、主催：社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団）」に河原崎研究室の研究成果として「ジェスチャ指示による電動車いす操作システム」を出展しました。今年のヨッテクは、「どこに行きたい?じゃ、行こうヨ!あなたの移動を快適に」を合言葉として、障がいのある人々をとりまく環境を一層よいものにする「移動」をテーマとしています。出展したシステムは、画像処理を用いて操作者の手の位置を認識し、その位置に応じて電動車いすを動かすというもので、今年のヨッテクのテーマに合致したものです。室内において電動車いす使用者が、一人で日常生活を行う場合、両手が塞がりジョイスティックの操作ができなくなる場合があります。（例えば、台所で調理をする場合に両手で皿を持ちながら場所を移動したい場合など）このような状況を想定して、開発しているシステムです。実際の車いす利用者や介護現場で働く方々から、動作の仕組みやジェスチャの認識方法などについての質問を多く受けました。また、開発者では気がつかないような使用に際しての問題点などを指摘され、今後の開発に大変参考になりました。ヨッテクは、企業展示もありますが、福祉や介護に関心のある一般の方々の参加者が多く、介護犬の実演や車椅子の体験などもあり、非常にアットホームな雰囲気でした。来場者は、2日間で1万5千人以上と大変盛況でした。来年は7月11日・12日に、「ヨッテク2014」が開催されます。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授/河原崎徳之)



出展ブースの様子

第26回先端技術見本市 「テクノトランスファー in かわさき 2013」に出展

「テクノトランスファー in かわさき 2013」が7月10日～12日の3日間にわたり、かながわサイエンスパーク(KSP)にて開催されました。「技術が創る新たな時代」のテーマのもと、猛暑のなか8,200名を超える来場がありました。本学ブースは当学科から「加速度センサ等を用いた歩行や行動評価、および生理・生体計測の研究成果」と題して出展し、関連する機器展示とポスター発表が行われました（松尾崇教授、渡邊紳一准教授、大瀧保明准教授）。また、技術シーズ提供セミナーでは、「加速度センサやジャイロなどを用いた人間の歩行や行動評価に関する計測技術」をテーマに、大瀧准教授による講演が行われました。技術セミナー、本学展示ブースともに多数の来場者があり、人に取り付けるセンサによる計測技術や生理・生体計測に対する企業の関心の高さが伺われました。研究の今後の展開に多くの意見が交わされ、好評の内に終ることができました。



第13回 福祉アイデアコンテストで活躍する学生たち

7月27日、ロボット・メカトロニクス学科および健康福祉支援開発センターの主催による「第13回福祉アイデアコンテスト」が、本学で開催されました。82件の作品やアイデアの応募があり、その中から20件が採択され、アイデア部門と作品部門に分かれて審査されました。今回の応募には、本学科スポーツ・健康生活科学コースの学生の作品が4件採択されました。このコースでは、障がい者の方々や障がい者施設や福祉施設に勤務する職員の方々を招き、生活上、あるいは介護する上で実際に困っている問題を学生に提起していただき、その解決策となる福祉用具を半期の中で作成するという課題解決型プロジェクト(ユニット)を実施しています。用具の作成までには、学生が問題提起していただいた障がい者の自宅や施設を訪れたりして、作成する用具についてのディスカッションやアドバイスを受けながら最終的な福祉用具を完成していきます。また授業の最終段階では、その方々を再度招き、実際に完成した福祉用具についての発表を実施し、新たなアイデアや修正点を指摘していただいています。このような授業から生まれた福祉用具の中で、4チームの作品がコンテストで発表されました。その中で、高橋恵梨さんと古川貴史さんの作品がアイデア作品賞を、野村龍伸さんのチームの作品が奨励賞を、大門有沙さんのチームが入選いたしました。今回、玉腰達也さんの作品は受賞できませんでしたが、作品を仕上げたための多くの質問を受けていました。

本学科と健康福祉支援開発センターでは、本コンテストに多くの学生が積極的に参加し、福祉用具の必要性やものづくりの楽しさを学ぶとともにその成果を発表できる経験の場となることを期待しています。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授/高橋勝美)



高橋恵梨さん、古川貴史さん

野村龍伸さん



玉腰達也さん

大門有沙さん

本学科の学生が「かわさきロボット競技大会」で優勝しました

8月25日、ロボット同士の異種格闘技戦「かわさきロボット競技大会」の決勝トーナメントが川崎市産業振興会館で行われ、「バトルロボット部門」に出場した本学ロボット工学研究部の山口将さん*キャプテン(ロボット・メカトロニクス学科4年)と、北島尚さん(ロボット・メカトロニクス学科4年)のチームの「穹(ラファール)」が優勝しました。

今年で20回目を迎える「かわさきロボット競技大会」は、川崎市と川崎市産業振興財団が毎年開催しているもので、今年は全国から231チームが参加しました。本学ロボット工学研究部からは長年出場し、歴代の実績をもつチームとして注目を浴びています。

優勝した山口さんは「決勝トーナメントでは、6回戦を戦い抜きました。昨年、私は初戦で敗退。今年はどうしても結果を出したくて、社会人や他大学のチームの方たちと技術交流も兼ねて、毎週練習を重ねてきました。少しずつレベルアップをしてきたことを実感しています。この後もさまざまな大会を控えているので練習を重ねて、技術力向上を目指していきます。」と話しました。



優勝した山口さん(左)と北島さん(右)

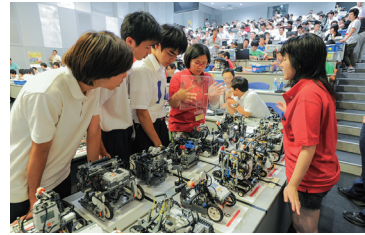
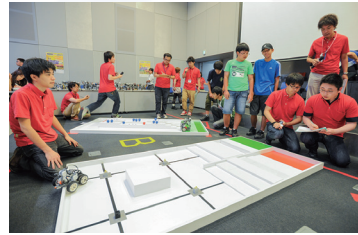
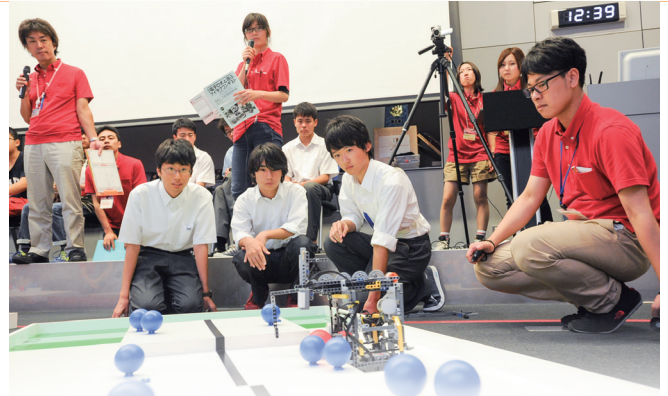
ホームエレクトロニクス開発学科

ロボットコンテストの開催に学生が協力

今年で15回を迎えた高校生を対象としたレゴマインドストームロボットによるコンテスト「電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト」が8月8日、9日に情報学部棟メディアホールにて開催され、関東東海地区の高校からロボット初学習者を対象としたBASIC部門に30チーム、上級者向け課題にチャレンジするエキスパート部門に62チーム、延べ270名の高校生が参加しました。本コンテストは、6月から始まる3回のロボット学習会と連動した内容であり、運営に関しては本学科学学生20数名が学生実行委員会を結成し、ボランティアとして協力しました。学生は単にコンテスト運営だけではなく、日頃の学習の成果を応用してロボットの製作やプログラム制御方法などを高校生に指導する等のスキルアップにつながる一面もありました。また、本学コンテスト上位チームが参加するWRO JAPAN2013（9月8日 東京BUMBスポーツ文化館）にも同学生実行委員会が会場設営、大会運営や競技審判などで運営に協力しました。

6月から9月という長期間の対応でしたが、先輩格である大学院生の中島義人さんを中心に、積極的に学年を超えたチームワークで対応できたことが運営成功の源であったと感じています。このような事業を通じて、授業では修得できない社会人基礎力を実践的に身に付け、各自のキャリアアップにつなげてもらいたいと思います。協力した学生諸君ご苦労様でした。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授/金井徳義)



学科イベントに積極的に参加

ロボティクス講座指導スタッフとして

高山 壮真(ホームエレクトロニクス開発学科4年)

今回、私はロボティクス講座に指導スタッフとして卒業研究も兼ねて参加しました。今回の講座は、私と同じ研究室の藤田君が卒業研究の一環として製作したLEDの順次点灯回路を、高校生に「はんだ付け」をしてもらうという内容でした。講座を受講した高校生はほとんどが、はんだ付け経験者でしたが、基板パターンのショートが予想外に多かったように感じました。プログラミングではLEDの点灯速度を高校生に変更してもらい、みんな自分で変更したプログラムがきちんと動作したときは、とても楽しそうでした。今回の講座を通して、もっとものづくりへの関心を深めてもらえたいと思います。



「夢ナビ」への学生スタッフとして参加

野見山 翔太(ホームエレクトロニクス開発学科4年)

「夢ナビ」当日の会場には多くの高校生が来場しており、各ブースには立ち見が出るほどでした。

しかし、三栖准教授の講演開始前に不測の事態が起こりました。

それは当初予定していた参加者への「LED消しゴム」の組み立て体験&配布がブース内で出来ないということです。そこで急遽、スタッフが組み立てた完成品を質問ブースで配布する形へ変更することとなりました。学生スタッフ3名、残り時間30分で約200個の組み立てをしなければなりませんでした。しかし、組み立てを行いながらスタッフ間で作業の最適化を適時行い続けることで、無事に時間内に組み立てをすることができました。

講演が始まる前から多くの高校生がブースに集まっており、講演終了時までには、高校生が立ち見で講演を聞いていました。その後、質問ブースに訪れた高校生の人数が多かったため、テーブルやイスを他の倍以上増設し、多くの高校生に興味を持ってもらうことができた講演となったと感じています。



神奈川県立青少年センターと本学が主催する「科学のひろば」に協力

藤田 和哲(ホームエレクトロニクス開発学科4年)

私は2年生から「LED消しゴム製作」のスタッフをしてきました。子どもたちが我先にと入口から走ってくる光景は毎年同じみです。楽しみにしている子どもたちの思いの一部になればいいと思い、LED消しゴムやイルミネーションの作り方を丁寧に教えてきました。

中でも、印象に残っているのは、折り紙の鶴の折り方を子どもに教えてもらったことです。

和風イルミネーション製作ということで、LEDの光を和紙で拡散させるために折り紙を折ってもらうのですが、鶴の折り方がわからず、参加した子どもたちに逆に教えてもらいました。ちょっとしたハプニングでしたが、同じ目線に立ち働くできたと思います。

理系離れが懸念されている世の中ですが、今年の科学のひろばでは来場者が400人を超えるほど大盛況でした。将来的に同イベントに来場した子どもたちは、理系へ進んでいくのかもしれない。



ほとんど全てのイベントで、私の研究室の卒業研究生たちが関わっています。電子工作の準備から、実際のイベント運営まで、活躍してくれました。特にロボティクス講座では、私は彼らが作製した教材を用いて講義を行いました。「高い完成度の教材」ということで、青少年センターの嶋村先生から評価を頂きました。またスタッフとして参加した他の1、3年生は卒業研究生から、良い刺激が得られたと思われまます。彼らのさらなる活躍に期待しています。

ホームエレクトロニクス開発学科 准教授 三栖 貴之

ユニットプログラム 発表会を実施

1年生

1年前期の化学・生物学基礎ユニットプログラムでは、従来別々であった「講義・実験・レポート作成・発表」などの科目を一体化した授業を展開しています。この授業の仕上げにあたるのが、口頭による発表会です。学生は、これまでに学んできた実験・講義内容の中から1つ選び、ワードによる発表要旨の作成、パワーポイントによる発表資料の準備、そして、前に出での発表・質疑応答を行います。発表会を終えての感想は、「わかりやすく伝えることは本当に難しい!」でした。

「バイオコンテスト」 バイオを楽しく学べる教材を作ろう!

2年生

与えられたお題に関する教材作りに、2年生前期の学生実験の中で取り組みました。コンセプトは、「高校生が楽しく学べる教材を作る」です。今年度のお題は高校生物の「遺伝」でした。8~10名を1つのグループとして、各々のアイデアをもとに、どのような教材(カードゲーム、すごろく、パズルゲームなど)を作ればよいかを討議し、皆で協力して作品を完成させました。発表会は、外部からゲスト審査員をお招きして、2年生全員の前で行いました。参加者全員の投票で最優秀賞を決めたところ、「崩さず当てはめろ!血液型ジェンガ」を考案したグループ(大工原七星さん、八田龍之介さん、多田夏美さん、瀬戸屋諒さん、原田由美さん、鳥巢祥菜さん、笠松知恵美さん、村田郁さん)が選ばれました。



自主テーマ実験 ポスター発表会を開催

3年生

3年生にとって一大イベントである自主テーマ実験が今年も行われました。これまで同様、放課後や休日まで出てきて頑張って実験を行っていました。中でも、「バナナの食べごろ」を科学的に調べた本橋彩子さんが、最優秀個人賞を受賞しました。また、同テーマの関野睦さん、「アクネ菌のタイプとニキビのできやすさ」を調べた喜田亜由美さん、「遺伝子で恋愛傾向がわかるか」に取り組んだ高宮彩さん、「ハゲ遺伝子」を調べた横田憲明さん、「植物生育を向上させる成分」に取り組んだ竹花厚美さんたちが優秀ポスター賞を受賞しました。最優秀グループ賞は、「ミドリムシが美白効果持つ」ことを示した、中山玲奈さん、志澤麻祐さん、水野翔太さん、村上光平さん、佐々木菜摘さん達が受賞しました。賞に関わらずこの経験を活かして就職活動、卒業研究等を頑張っ



学内留学?! 英語で実験

今年もサウスシアトルコミュニティカレッジからマーク先生を招いてバイオ特別実験が開催されました。夏季休業期間にもかかわらず14名の学生が参加して、3日間で4種類の実験を行いました。マーク先生のアシスタントに、6カ月研修経験者の大学院1年の白石有希さんが入り、作業に対する質問や対応も全て英語で行いました。いつも以上の緊張感を持って必死にノートをとったり、予習で黒くなったテキストに書き込んだり熱心に受講していました。そのうちの1日は、鎌倉高校の生徒さん7人も交えての実験でした。高校生は、本学科の学生たちが先生の話の後、すぐに作業に取り掛かる様子を見て、「どうして今で分かったの?!」と驚いていました。アンケートでは全員が大変満足が満足という驚異的な結果からもわかるように、マーク先生の分かりやすい発音と板書を多用した丁寧な説明に、皆充実した実習期間を過ごしました。



インターンシップへの取り組み

インターンシップとは、学生が企業や官公庁などにおいて一定期間研修生として働き、就業体験する制度です。インターンシップを希望する学生は、まず事前学習で業界研究の方法とエントリーシート・履歴書の書き方等を学び、マナー講座を受けてから、企業等での研修に参加します。また研修を終えてからも事後学習として報告書の作成等について学び、そしてインターンシップ報告会に参加します。応用バイオ科学科では今年は10数名の学生が神奈川県内広域水道企業団、紀伊屋書店、レモンガス株式会社、日本海事検定協会などで研修を受けさせていただきました。研修成果については10月24日の報告会で発表される予定です。今回研修に参加できなかった人や2年生は、報告会で参加した学生の経験談を聞いて参考にしてほしいと思います。末筆になりますが、学生を受け入れ、ご指導いただいた関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

新任のご挨拶

応用バイオ科学科 准教授 井上 英樹

9月1日付けで立命館大学生命科学部より応用バイオ科学部応用バイオ科学科に着任しました。井上英樹と申します。大学院時代から線虫という生物を用いて個体レベルのストレス応答や寿命制御に関するシグナル伝達機構について研究を行ってまいりました。今後はこれまでの研究を発展させ、病気や老化を引き起こす分子メカニズムを明らかにするとともに、線虫を用いて有用な生理活性物質の探索を行い、健康増進に貢献したいと考えています。応用バイオ科学科に入学してよかったと学生さんが思えるような研究・教育を進めてきたいと思っています。

専門分野は、「遺伝学」「生化学」の技術を用いて、活性酸素や熱などのストレスに対して個体が身を守るしくみや、どのようなしくみで個体の寿命制御が行われているかを、線虫を用いて調べています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



栄養生命科学科

「国家試験・就職懇談会」を開催

8月3日、2～4年生を対象に、情報学部棟メディアホールにて「国家試験・就職懇談会」を開催しました。現在、管理栄養士として様々な職種でご活躍されている6名の方から、国家試験合格に至る秘訣や、就職内定に至るプロセスを丁寧に講演していただきました。病院、学校栄養職員、食品開発、ドラッグストア、会社の集団給食施設、研究職と幅広い分野から管理栄養士の未来像を熱く語っていただき、学生も真剣な眼差しで約5時間という時間を過ごしました。午前中は講演、午後は講演者の方が各ブースにおいて、直接、学生からの質問を受けていただきました。どのブースも多くの学生が列を作り、熱心にメモをとっていました。今後の就職活動、国試勉強に反映させ、たくましい管理栄養士になってほしいと感じます。



病院、公務員、企業の研究開発などで、現在活躍されている管理栄養士の方から貴重なお話を伺うことができました。

「臨地実習Ⅲ」報告会

7月9日、情報学部棟メディアホールにて3年生、4年生が参加した「臨地実習Ⅲ（給食経営管理）」の報告会を行いました。臨地実習Ⅲでは、美味しい食事を提供し喫食者の満足度を上げる一方、与えられた経費をいかに有効に活用し喫食者に還元していくかという、経営としてとらえたマネジメント能力を養うことを目標としています。実習では社員食堂、院外調理施設、病院にて行い、事前に各施設の特徴に合わせた課題を設定し臨みました。報告会では実習内容と設定した課題について発表を行いました。3年生、4年生ともに、より一段と成長した姿がうかがえ、実習を通して多くのことを学べたのだと思います。実習を控えている2年生は先輩たちの発表に刺激を受け、一層勉強に励むことと思います。



「かながわ食育フェスタ」に出展

8月7日、横浜赤レンガ倉庫にて開催された「第6回かながわ食育フェスタ」に、栄養生命科学科の「食とアートプロジェクト、+α資格取得プロジェクト（食育）」と、情報メディア学科の小坂先生とのコラボレーションで出展しました。“ゲームで楽しむ食育 ～これで解決？野菜嫌い～”をテーマに、1～3年生のプロジェクトメンバー33名が約1か月半をかけて、噛むことの大切さや野菜を食べることの必要性を分かりやすく説明したパネルやゲームの修了証の作成、野菜料理レシピ作りに取り組みました。当日は小坂先生考案の偏食克服シューティングゲームの遂行を皆で盛り上げ、神奈川工科大学ならではの、食育プログラムを展開しました。



情報メディア学科と共同で出展を行いました。

生化学実験I/化学基礎実験 プレゼンテーション

7月18日、「生化学実験I」と「化学基礎実験」の締めくくりとなる合同発表会を行いました。本学科1年生にとって初めての実験を、5分という限られた時間で発表するのは大変だったかと思いますが、文字の色や大きさを強調した学生や、アニメーションを使った学生など、1枚1枚のスライドから聴き手に伝える工夫がされていました。本学科は実験の発表会や臨地実習報告会など、プレゼンテーションを行う機会が何度もあります。今後も、ますます良い発表技術を身につけていって欲しいと思います。



新入生歓迎会～縦コン開催～

6月11日、2年生と4年生が中心となって新入生の歓迎会を第1食堂で開催しました。4月に新1年生である第4期生を迎え、1～4年の全学年が初めて揃った縦コンとあって、大いに盛り上がりました。学生と教員約250名が参加し、サラダ、ピラフ、ケーキなどビュッフェ形式の食事を囲みながら、とても賑やかで楽しい会となりました。

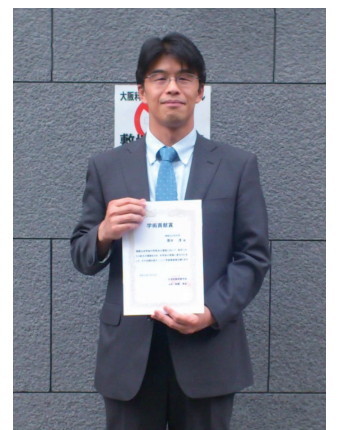
普段は交流の機会が少ない先輩や後輩、教員とも親睦を深められたようです。縦横の繋がりを大事に、皆で支え合いながら過ごしていければと思います。



新入生歓迎会～縦横の繋がりを大切に～

栄養生命科学科の 澤井淳教授が学術貢献賞を受賞しました

栄養生命科学科の澤井淳教授が、日本防菌防黴学会の学術貢献賞を受賞しました。日本防菌防黴学会は、食品、医療、各種材料、環境における微生物の生育をコントロールし、安全で快適な製品や環境をつくることを目的としている学会です。澤井教授の今回の受賞は、編集委員や広報委員といった学会での活動に加え、関東を中心に行われた近年3回の年次大会で、いずれもプログラム編成の責任者として（37回では大会副委員長）、大会運営に大きく貢献したことが評価されたものです。



情報工学科

DICOMO2013 参加報告

7月10日から13日まで、情報処理学会主催の「マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム (DICOMO2013)」が開催されました。DICOMOは、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交友の場となるよう、合宿形式によって行われています。平成9年度の初開催以来、学術的な研究論文のみならず、事例報告、問題提起などの論文も対象として、活発な議論を行っているシンポジウムです。今年は、北の大地にある十勝川温泉ホテル大平原にて開催されました。

神奈川工科大学からは、多くの学生や教員らが論文を発表し、優秀プレゼンテーション賞等を受賞することも多々あります。今年は下記9名の学生が発表に臨み、活発な意見交換を行ってまいりました。発表者によると、DICOMOは質疑応答の時間が他よりも多く確保されているため、充実した質疑応答ができ、いただいたご意見を次の研究へ活かしていきます。とのこと。就職活動と重なった学生もおり、忙しい日程の中での研究や発表準備となりましたが、無事乗り切ってくれました。その一方で初めての発表で緊張していた学生もいましたが、この経験を糧にこれからも研究活動に邁進してもらえるのではないかと感じました。

市村 亮太さん(情報工学専攻博士前期課程2年)

「視覚攻撃耐性を考慮したスマートフォンにおけるリズム認証手法 -楽曲の主旋律を用いた際の認証精度評価-

神崎 浩貴さん(情報工学専攻博士前期課程2年)

「研究会情報を用いた人間関係の抽出」

谷村 祐さん(情報工学専攻博士前期課程2年)

「受講者の即時的な反応を記録する授業トラッキングシステムの開発と評価」

山田 健一朗さん(情報工学専攻博士前期課程2年)

「スマートフォンにおけるキー操作熟練度の違いによるキーストローク認証手法の検討」

仲濱 正大さん(情報工学専攻博士前期課程1年)

「自己組織化マップを用いた診断群分類番号データの分析と医療情報システムへの応用」

屋良 朝克さん(情報工学専攻博士前期課程1年)

「超音波測位と慣性測位による広域屋内測位のための地図情報提示システムの設計と構築」

大植 達也さん(情報工学4年)

「学生の行動モデルを活用した通学支援システムの検討」

柿澤 浩仁さん(情報工学4年)

「車載スマートフォンにおけるプローブデータ圧縮方式」

佐藤 充さん(情報工学4年)

「HDFS対応型スケールアウトNASの性能評価」



毎年、多くの学生が論文発表を行う「DICOMO」の様子

学んだ情報技術を活かして地域貢献

<厚木市森の里4丁目との協業>

森の里4丁目の自治会の皆さまと協力して、地域の目「防犯ネットワークシステム」を、情報工学科が開発し、情報学部と情報教育研究センターが協力して運用しています。

森の里4丁目が開催しているサマーフェスタというお祭りには、学生と教員で2年連続で参加させていただいています。お祭り期間中は、事務局の隣に、ユーザー登録会場を設け、利用者を増やすよう努力しています。今年は、18人の新たな利用者登録をお手伝いしました。

このようなシステムは、大学(作成者側)の一方向的な思い込みで作られることが多いのですが、学生が利用者の要望を聞き取りながら実際にシステム開発を行い、現段階で100名程度の利用者があるという点が、自慢できるところだと考えています。



祭り会場にて登録希望を受け付けました。

<ホームページ制作のボランティアの取り組み>

情報工学科の4年生有志5人のチームで「横浜市肢体不自由児者父母の会連合会」という団体のホームページを立ち上げました。2月に連合会の方々とは顔合わせをし、そのあとヒアリング、企画、制作、レビュー、修正を経て、5月に公開しました。写真は連合会総会でのお披露目の様子です。クライアントの要望を聞き、さらにエンドユーザのニーズを思い描きながらコンテンツを作成する良い経験になりました。

*制作したホームページのURL:

<https://sites.google.com/site/yokohamashishiren/>



作成したホームページを、連合会総会で説明しました。

学生の国際会議での発表

情報工学科では、学生の国内の学会のみならず、大学の支援を積極的に利用して、海外発表にも取り組んでいます。研究の進展という観点だけではなく、外国を経験することにより視野を広げることにつながります。本学科では、6月、7月に以下の国際会議で学生が研究発表を行いました。

塩原慶一さん(情報工学専攻博士前期課程1年)、田住光さん(情報工学4年)

「Eighth International Conference on Internet and Web Applications and Services」(6/23-28:ローマ)

<論文題名>

「Designing Formulas for Creating a Healthcare Cloud Service Based on a Formula Calculation Platform Service」

菅谷隆浩(情報工学専攻博士前期課程1年)

「Human Communication Interaction International 2013」(7/24-26:ラスベガス)

<論文題名>

「Basic Investigation into Hand Shape Recognition Using Colored Gloves Taking Account of the Peripheral Environment」

それぞれ、ローマ、ラスベガスという世界有数の観光地でもあり、発表後は観光を楽しんだことは言うまでもありません。大学院生1年生の学生はまだ1年ありますので、来年のエントリーに向けて、今後の研究の加速が期待されます。



視野を広げることができる海外での学会発表

スマホアプリコンテストで、情報工学科の学生が優秀賞を受賞

Androidアプリケーションとアイデアのコンテスト「Android Application Award (A3、エーキューブ) 2013」の決勝プレゼン&表彰式が6月27日に開催され、(主催:日経BP社 ITpro) 情報工学科3年の舟橋さんが開発したアプリケーション「Chiee!ミニブラウザ」が優秀賞を受賞しました。このアプリケーションは、画面にフローティング(浮遊)させて、マルチウィンドウ風に閲覧できるWebブラウザで、別のアプリ使用中にWebページを見ることが出来ます。動画プレイヤーとしても動き、タスクバーでウィンドウの最小化も可能です。

優秀賞を受賞した舟橋さんは、「個人開発の有名なAndroidブラウザがありますが、その人たちに憧れて、私もブラウザ作りを始めました。しかし、ブラウザアプリは数多く公開されています。何か特別な強みがないと使ってもらえないと思い、PCのマルチウィンドウのようなものを作ろうと思いつきました。今回の受賞は、学生という立場で、企業の方たちと並べられてとても嬉しいです。この経験を糧に、これからもっと革新的なアプリ開発をしていきたいと思っています。」と感想を話しました。



Chiee!ミニブラウザ

情報工学科ブログの紹介

情報工学科では、学科ブログを運営しています。これらの記事の詳細やその他学生の活躍や学科のイベントを紹介しています。

<http://blog.cs.kanagawa-it.ac.jp/>



学生の学会発表

6月初旬、幕張メッセで行われた「Interop Tokyo 2013」のORC（オープンルータ・コンペティション）に岩崎祐也さん、我如古翼さん、（ともに情報工学専攻博士前期課程2年）、樋口 駿さん（情報工学専攻博士前期課程1年）が参加しました。多数の応募作品の中でも高い評価をいただき、みごと一次審査を通過。最終審査がされる5チームに残りました。



井上研究室山口さんの発表

テーマは「シンボリックルータSKAITの提案」です。空中に浮遊し容易に視認できるルータ機能、「SKAIT」は、災害時や屋外イベントなど臨時にネットワークが必要となる状況で、仮設インフラを提供すると共に、ルータそのものをシンボル化する事で、災害救助やイベントのサポートをすることを目的とします。具体的には様々な機能（カメラ、LED、複数の無線インタフェース、GPS）を持ったルータをバルーンに乗せることで、利用者へのアクセスエリアの視認化や接続状況の見える化を行い、災害時の救助要請の補助や救助隊への情報提供、イベント模様の交換などを行います。さらに、SKAIT同士で組んだネットワークを相互接続し、広域エリアをカバーできるシステムやアプリケーションの転送ポリシーに応じて、信頼性指向のパス設定や、リアルタイム指向のパス設定などが選択できる仮設インフラを目指すというものでした。



岡本学研究室のデモ展示

6月22日～23日、青森県にある「リンクステーションホール青森」で行われた画像電子学会年次大会では井上研究室山口悠希さん（情報工学専攻博士前期課程2年）が「没入型ディスプレイである高所表現と鑑賞者の反応」について発表を行いました。

没入型ディスプレイであるCAVEディスプレイにて高所を表現した3DCGコンテンツを制作・提示し、臨場感の検討を行いました。具体的には高層ビルを上下に移動するエレベータから周囲や階下の風景を眺めることができるコンテンツを作成し、このコンテンツを体験した際に鑑賞者が持つ高所感や、風景の変化やエレベータ移動にもなる印象変化を評価するというものでした。

7月中旬には岡本学研究室の4年生那口小貴さん、日高奈美さんがSOUPS2013（Symposium On Usable Privacy and Security）というセキュリティ分野の国際会議に参加のため、イギリスへ渡りました。SOUPSはFacebookやMicrosoft、Google等、有名企業がスポンサーを務める「使える」セキュリティを目的とした学会です。「Anti-phishing System Link-back to Login Page from Footprint」（「フィッシングサイトを見破る方法として、「足跡」を利用する方式の提案」）「Input Password Only with Arrow Keys」（「矢印キーのみでパスワードを入力することで覗き見に対抗する提案」）この2つのテーマについてポスター発表及びデモ展示を行いました。

アプリ開発企画「iTOCSプロジェクト」から、iPhoneアプリ「Spoon!」がiTunes StoreとApp Storeに公開!

情報ネットワーク・コミュニケーション学科臼杵研究室で行われている「iTOCSプロジェクト」は、仲間のC言語プログラミング能力を実践レベルに引き上げ、お互いの知識・技術の共有と活発な議論を通じて、アプリケーションソフトの開発と販売までを迅速に行う組織です。プロジェクトは大学の授業とは関係ない一種の有志活動であり、活動は毎週1回のワークショップでメンバーが作成しているアプリとその技術紹介による講習会などを行っています。

同プロジェクトから、「Spoon!」というiPhoneアプリが、7月4日よりiTunes StoreとApp Storeに公開されました。「Spoon!」とは、運動会や体育祭などの障害物競走の種目であり、ラケットの上にボールを乗せてボールを落としてはいけぬ種目「スプーン」をアプリゲーム化したものです。動作としては加速度センサーを用いて、iPhoneやiPod Touchを傾けると、傾けた方向にボールが動き、障害物に当たらないようにしながら、どれだけ長くラケットからボールを落とさずに維持できるかを競い合うアプリです。「Spoon!」のアプリリーダーの、永尾謙伍さん（情報工学専攻博士前期課程1年）は、アプリ販売について、「私は大学3年生まで大学1年生で学ぶC言語を授業以外で使用する機会がありませんでした。しかし、iTOCSプロジェクトというプロジェクト活動があるのを知ってから、1年生の時に学んだC言語を実践的に使用してみたいと思い、iTOCSプロジェクトに参加しました。今回販売した「Spoon!」は私一人の力ではなく、iTOCSプロジェクトメンバーとのチームワークがあったからこそアプリを販売することができました。「Spoon!」で私が行ったことは企画・シナリオ・プログラム・監督であり、アプリのデザインや音声、HP作成などはiTOCSプロジェクトメンバーに協力してもらい、私が苦手とする箇所を得意な人が補った上で販売することができました。これからもたくさんさんのアプリをiTunes StoreとApp Storeに出していくつもりですので楽しみに待っていてください。」と、話しました。



研究室対抗ソフトボール大会開催

7月31日、蒸し暑い曇天の中、学科研究室対抗のソフトボール大会が開催されました。研究や就職活動の合間に練習に励んできただけあって、甲子園にも負けにくいぐらいの熱戦が繰り広げられました。もちろん女子も参加。さすがに「力」の差があるため、特別ルールが適用されたようですが、これがゲームをさらに面白くしたようで大いに盛り上がっていました。



優勝した上平研究室

教員も参加しました。情報学部の学部長でもある上平教授の「雄姿」をみることができ、学生からは歓声が上がった場面も…。今年の優勝チームはその上平研究室でした。準優勝は揃いの赤Tシャツに身を包み、心をひとつに団結して戦った臼杵研究室。研究室のメンバーとの絆が深まると同時に、普段はなかなか交流することのない他研究室のメンバーとも親睦を深めることができたと思います。



準優勝の臼杵研究室

研究紹介 覗き見されても安全な認証方式の研究開発

岡崎研究室

近年、スマートフォンやタブレット端末など、従来のモバイルPCよりもモビリティ性能が高く、多機能な端末が急速に普及し様々な場所で利用されています。例えば、企業などでは、スマートフォンやタブレット端末を業務へ導入（BYOD: Bring Your Own Device）することにより、営業活動や業務の効率化はもちろん、大規模な災害や事故発生時の事業継続計画（BCP: Business Continuity Plan）が実現可能になります。

一方、スマートフォンやタブレットはPCに比べると紛失・盗難の危険性が高く、ポットウィルス感染などにより、情報漏えいの脅威がさらに拡大されることが予想されています。特に、現在多くのモバイル端末には、PIN（Personal Identification Number）やパターンなどを利用した画面ロックの解除認証が広く利用されていますが、これらは人の目にさらされた環境で画面ロックの解除認証を行うと他人に認証情報がばれてしまう危険性があります。そこで本研究室では、画面上のアイコンをタップして操作するという扱いやすい入力方式によって高いユーザビリティを有し、認証動作を他人に見られたり、カメラなどの録画機器に録画されたりしても認証情報が露呈しない新たな認証方式の研究を行っています。

例えば、右の図に示すような格子状（4×4のアイコン群）にランダムで表示されたアイコン画面で、自分が登録したアイコンから一定の距離を移動した先のアイコンをタッ

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 岡崎 美蘭

プすることで認証を行う「Secret Tap」方式を開発しました。本方式では、ユーザが登録したアイコンを含む象限から、「シフト」と呼ぶ独自の移動法則を用いて象限間または象限内を移動し、その移動先にあるアイコンを認証情報となるアイコンとしています。この例では、第2象限の右下のアイコンを登録アイコンとし、象限間シフトは+2、象限内シフトは+1としています。まず登録アイコンがある第2象限から、象限間を反時計回りに2象限分先の第4象限へ移動し、次に第4象限内で、登録アイコンと同位置である右下のアイコンから象限内を反時計回りに1アイコン分移動します。その移動先のアイコンが認証アイコンとなり、ユーザはこのアイコンをタップします。この動作を登録アイコンの数だけ繰り返し認証を行います。シフト機能による移動量は本人しか知らず、移動先のアイコンも認証のために異なるため、攻撃者は認証動作を目視しても認証情報を盗むことができなくなります。現在、本方式をAndroid端末上にアプリケーションとして実装し、その有効性の評価を実験とアンケートにより行っています。



情報処理学会DICOMOで、大学院生が優秀プレゼンテーション賞を受賞

7月10日～12日に開催された情報処理学会のDICOMO 2013 シンポジウムにおいて、大学院情報工学専攻博士前期課程2年の山田泰宏さん(速水研究室所属)が優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。発表論文数が300件を超え、参加者は400名程度という大きなシンポジウムでの受賞です。

<優秀プレゼンテーション賞受賞>

[研究タイトル]

ソーラーカーのためのリアルタイム遠隔モニタリングシステム

大学院情報工学専攻博士前期課程2年(速水研究室) 山田 泰宏

今回は300を超える発表の中から、「優秀プレゼンテーション賞」を受賞することができました。私がDICOMOで受賞した回数は今回で2回目です(昨年は、「ヤングリサーチ賞」を受賞しました)。シンポジウムにおける研究の大学別発表件数は、なんと昨年に引き続き、本学が第1位になりました。ところで2008年は、本学の発表件数は第2位でした。

受賞した研究は、ソーラーカーに関する情報を遠隔測定するためのシステム(テレメトリシステム)に関するものです。ソーラーカーレースにおいては、太陽光発電によって得られる電力と予めバッテリーに蓄えられている電力を把握し、今後の日射状況や、コースの上り/下りなどの状況と照らしあわせて走行ペースを決めることが極めて重要です。これを誤ると電力不足で走行不能になったり、逆に電力を過剰に余らせたままその日の競技時間が終了になったりします。この走行ペースの判断はドライバだけでなく、後続車や遠隔地の支援者が協力して良いことになっています。これは箱根駅伝で運営管理者中の監督がレース状況を判断しながら選手に対してメガホンで指示を出すのと似ています。このため、ソーラーカーの電流・電圧・車速などの車両情報やGPSによる位置情報をリアルタイムに収集し、ドライバおよび支援者間で共有することが重要です。これを可能にするのがテレメトリシステムです。実は、我々は開発したテレメトリシステムの中核技術を既に特許として出願いたしました。そして今回のシンポジウムでは、このシステムは既存の技術と比べて大きなアドバンテージがあることをプレゼンしました。技術力の高さと有用性の高さ、そしてレースにおける走行ペースの判断の重要性を示せたことが、受賞の決め手になったと思います。システムの制作自体は、結果的に私が中心にはなったものの、第二著者である後輩の猪狩君を始め、本学のソーラーカーチームの方々が大きく関わりました。この場をお借りして研究に携わってくださった皆様に感謝いたします。



プレゼンを行った山田さん

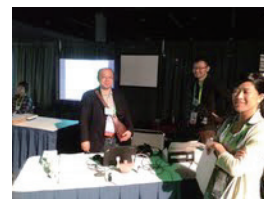
情報メディア学科の研究が世界最大のCG国際会議SIGGRAPHで多数採択

米国アナハイムで7月21日～25日で開催された、世界最大のCG/インタラクティブ技術の国際会議「SIGGRAPH2013」にて、情報メディア学科の研究が多数採択されました。

【速水教授・佐藤教授・鈴木助教】

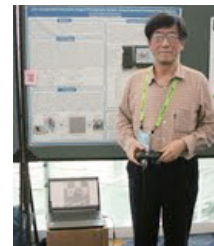
ワークショップコレクション等で高く評価された「たたかえ!!ぼくらのシャドウロボ」の展示および口頭発表を行いました。この作品では、ロボットの展開図に自由に模様を描いて、オリジナルロボットをデザインします。デザインしたロボットは、ペーパークラフトのロボットになるだけでなく、自分の身体をつかって戦うテレビゲームのメインキャラクターにすることができます。

今回の展示には情報メディア学科・助教の牧先生の他に大学院情報工学専攻2年の鈴木隆史さんと大学院情報工学専攻1年の石田元基さんも運営スタッフとして活躍しました。



【谷中教授】

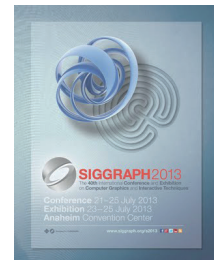
メガネなし立体ディスプレイのための映像を、グラフィックスプロセッシングユニット(GPU)を使ってインタラクティブに生成する技術について発表しました。情報メディア学科2012年度卒の木村翔さんの在学中の研究に基づいています。



【白井准教授】

情報メディア学科2012年度卒、大学院情報工学専攻1年の奈良優斗さんが、IVRC2013で世界3位の評価を受けた『瞬刊少年マルマル』から国際ステージに展開するまでの体験談や、姿勢をもとに感情を表現する画像を選択して合成する内部の技術について、アート、CG、美学などの研究会で、デモおよび講演を行いました。

世界最先端のCG/VFX/アニメーション映画制作技術やゲーム産業から3万人近くの参加者が訪れるSIGGRAPHで、このような発表の経験が得られる事は大変貴重な機会でした。発表にご支援いただいた後援会・各位にこの場を借りて御礼申し上げます。



「香港Baby & Mother Carnival2013」&「大阪マタニティカーニバル2013」にて妊婦体験システムMommyTummyの展示を実施

5月10日～13日に香港にて開催された「Baby & Mother Carnival2013」にて、妊婦体験システムMommyTummyの招待展示を行いました。Baby & Mother Carnival2013は、株式会社主婦の友社の香港法人である「Kodomo Communications Ltd」が主催するマタニティイベントであり、赤ちゃんのハイハイ競争や、各種トークショーなど様々な催し物などが開催されました。男性が自ら進んで積極的に妊婦体験する姿や、奥さんの荷物を積極的に持ってあげるといった姿を見ることができ、香港での育児に関する関心は、日本より高い印象を受けました。また、7月6日～7日に大阪で開催された「大阪マタニティカーニバル2013」でも展示を行いました。2日間の来場者は2万1847人でした。MommyTummyは、単に重たいだけのジャケットではなく、成長過程や重さ、温かさ、そして胎動も感じることができるシステムです。展示会場では、妊娠中のママに見守られながら、徐々に大きくなるお腹と格闘する新米パパ達の姿を見ることができました。MommyTummyは2分で臨月までの成長過程を提示することができるシステムです。

体験者の男性は、妊娠中の奥さんと同じ妊娠月になると「こんなに重い?」「蹴られた!今こんな感じなの?」とときりに尋ねている様子が見られました。

(文責:情報メディア学科助教/小坂崇之)



office information

平成24年度(2012)決算報告

1. 資金収支計算書

平成24年度収入は10,335百万円、支出は10,120百万円となりました。当年度収支差額は、次年度に予定していた補助金が当年度入金となったことや有価証券の売却等から予算を486百万円上回る215百万円となりました。

収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生から納入された学費などです。	6,752	6,758	△ 6
学生生徒等納付金収入	112	117	△ 5
手数料収入	15	13	2
寄付金収入	859	1,098	△ 239
補助金収入	242	245	△ 3
資産運用収入	1,459	1,607	△ 148
資産売却収入	63	58	5
事業収入	98	109	△ 11
雑収入	1,152	1,254	△ 102
前受金収入	337	430	△ 93
その他の収入	△ 1,355	△ 1,354	△ 1
資金収入調整勘定	9,734	10,335	△ 601
当年度資金収入合計	6,197	6,197	
前年度繰越支払資金	15,931	16,532	△ 601
収入の部合計			

支出の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
教育研究のために支出する経費です。	3,866	3,858	8
人件費支出	2,441	2,337	104
教育研究経費支出	667	637	30
法人の管理運営、学生募集に支出する経費です。	27	27	0
借入金等利息支出	154	154	0
借入金等返済支出	1,338	1,343	△ 5
建物、構築物等、施設を取得するための支出です。	287	307	△ 20
設備関係支出	1,253	1,258	△ 5
資産運用支出	1,005	839	166
その他の支出	△ 1,033	△ 640	△ 393
資金支出調整勘定	10,005	10,120	△ 115
当年度資金支出合計	5,926	6,412	△ 486
次年度繰越支払資金	15,931	16,532	△ 601
支出の部合計	△ 271	215	△ 486
当年度資金収支差額			

2. 消費収支計算書

帰属収入は、次年度に予定していた補助金が当年度入金になったことを主因に予算対比302百万円の増加し8,448百万円となりました。一方、支出面は経費削減等により予算を72百万円下回る8,025百万円となりました。

この結果、帰属収支差額は423百万円の収入超過となりました。

収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
一般寄付金および特別寄付金に加え、科学研究費補助金等により購入した機器備品および寄贈された物品である現物寄付金が含まれます。	6,752	6,758	△ 6
学生生徒等納付金	112	117	△ 5
手数料	20	29	△ 9
寄付金	859	1,098	△ 239
補助金	242	279	△ 37
資産運用収入等	63	58	5
事業収入	98	109	△ 11
雑収入	8,146	8,448	△ 302
帰属収入合計	△ 1,309	△ 1,230	△ 79
基本金組入額合計	6,837	7,218	△ 381
消費収入の部合計			

支出の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,841	3,834	7
教育研究経費	3,463	3,395	68
(内 減価償却額)	(1,023)	(1,058)	(△ 35)
管理経費	701	662	39
(内 減価償却額)	(34)	(25)	(9)
借入金等利息	27	27	0
雑支出	65	107	△ 42
消費支出の部合計	8,097	8,025	72

帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いた金額です。	帰属収支差額	49	423	△ 374
消費収入の部合計から消費支出の部合計を差し引いた金額です。	帰属収支差率	0.6%	5.0%	4.4%
	当年度消費収入超過額	△ 1,260	△ 807	
	前年度繰越消費収入超過額	△ 4,420	△ 4,420	
	基本金取崩額	3	3	
	翌年度繰越消費収入超過額	△ 5,677	△ 5,224	

3. 貸借対照表

有価証券のうち1年以内に満期到来するものについて、固定資産から流動資産に振り替えたことを主因に固定資産が減少し流動資産が増加しました。なお、正味財産(基本金+消費収支差額)は、27,156百万円、自己資金構成比率は84%となりました。

(資産の部) (単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	23,772	24,793	△ 1,021
有形固定資産	16,997	16,450	547
その他の固定資産	6,775	8,343	△ 1,568
流動資産	8,366	7,049	1,317
合計	32,138	31,842	296

土地、建物、教育研究用機器備品等です。

引当特定資産、収益事業元入金、長期に保有する有価証券等です。

現金預金、一時的に保有する有価証券等です。

(負債の部、基本金の部、消費収支差額の部) (単位:百万円)

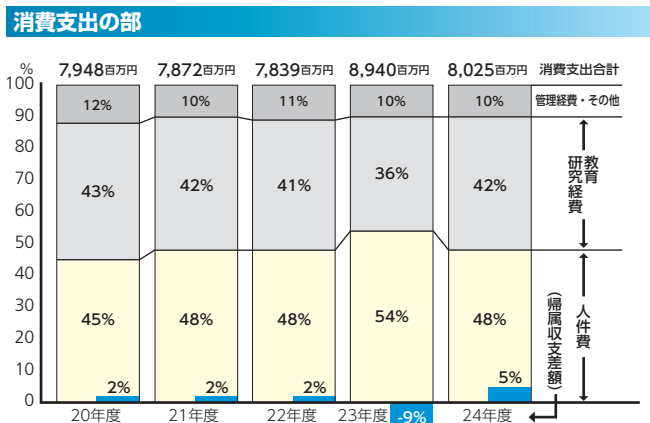
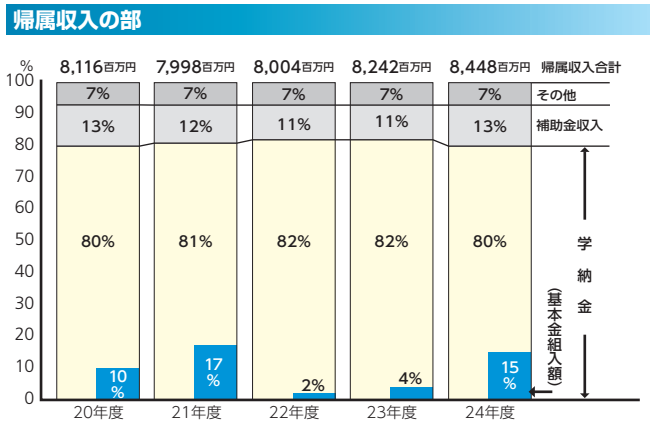
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,805	2,979	△ 174
流動負債	2,177	2,130	47
計	4,982	5,109	△ 127
基本金	32,380	31,153	1,227
消費収支差額	△ 5,224	△ 4,420	△ 804
合計	32,138	31,842	296

長期借入金、退職給与引当金等です。

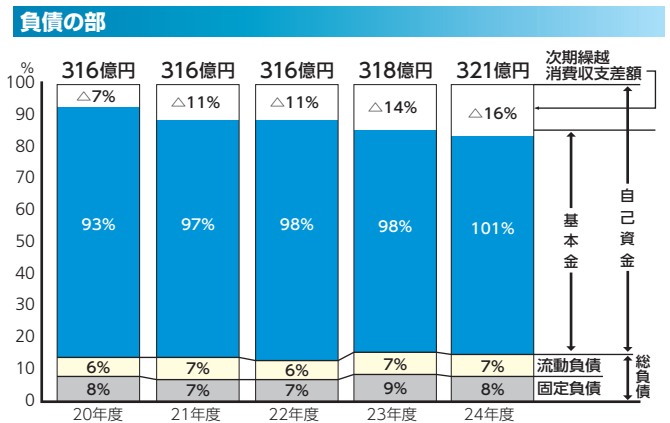
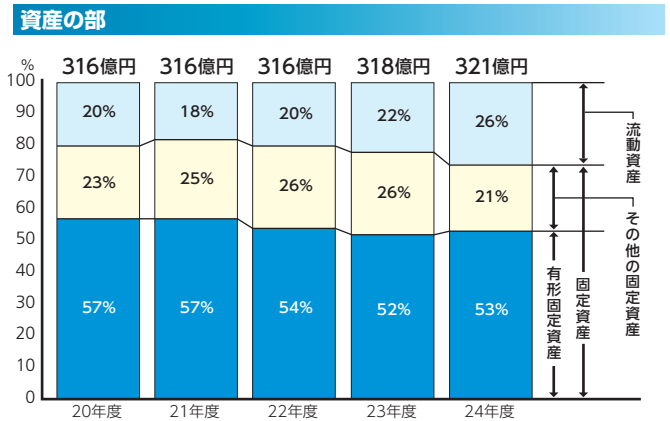
前受金、未払金等です。

5年 収支状況及び財務状況推移表

消費収支計算書(収支状況)構成比率



貸借対照表(財務状況)構成比率



本学の事業報告書・決算書及び事業計画書・予算書は本学ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。
http://www.kait.jp/about/biz_report/

office information

経営管理本部

総務課

人事発令(7月1日付け)

【昇進・昇格】

小川 浩子(経営管理本部 庶務課課長代理)
根岸 忠宏(学生支援本部 教務課係長)
二神 洋二郎(学生支援本部 教務課係長)

【配置転換】

中澤 裕子(経営管理本部 企画入學課課長代理)
椎名 知子(学生支援本部 キャリア就職課課長代理)
相田 聡巳(学生支援本部 教務課)
曾我 有子(学生支援本部 教務課)

【兼務】

黒古 敦(学生支援本部 国際担当部長・国際課課長)
鈴鹿 成司(学生支援本部 キャリア就職課)

【兼担当】

二神 洋二郎(学生支援本部 教務課教育開発センター支援室)

【兼務解除】

平野 多嘉弘(学生支援本部 国際担当部長・国際課課長)

【新規採用】(9月1日付け)

井上 英樹(応用バイオ科学部応用バイオ科学科 准教授)
神谷 克政(基礎・教養教育センター 任期制准教授)

理事会・評議員会報告

9月18日本学にて開催

【理事会決議事項】

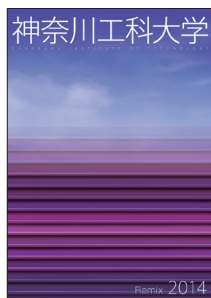
(仮称)先進技術研究所建設の件／平成26年度
学生生徒納付金等据置の件／諸報告

【評議員会審議事項】

(仮称)先進技術研究所建設の件／諸報告

企画入學課

刊行物のお知らせ



『Remix2014』
(大学案内2014縮刷版)



『先輩たちのキャリア
ストーリー』

学生支援本部

教務課

後期履修修正登録について

後期授業が9月20日から開始され、9月24日・25日にWeb履修修正登録を行い、10月初旬に後期履修が完了いたしました。なお、後期履修科目のキャンセル期間が10月18日～23日に設定

されています。これは、成績評価にGPA制度を導入したことに伴って、合格の見込みのない履修科目を自分の意思によりキャンセルすることで、GPAが下がらないように配慮した措置です。

平成25年度インターンシップ成果発表会の開催

10月24日、学生サービス棟3階の教室で、工学部・創造工学部・応用バイオ科学部・情報学部、大学院工学研究科の発表予定者75名と研修先関係者ならびに本学教職員・学生の参加により、インターンシップ成果発表会が開催されます。

授業関連

冬期休業：12月26日～1月5日
後期終講日：1月27日
後期定期試験：1月28日～2月4日
追試期間：2月5日～2月7日

教員採用試験対策室

本年度採用試験受験状況(中間まとめ)

全国公立学校の本年度の教員採用試験は、6月31日の北海道から始まり、7月末までの5週に渡り各都道府県で実施されました。本学の学生及び卒業生の受験者は毎年増加しており、本年度は58名(昨年：54名、一昨年：47名)が受験し、昨年を上回る最多の受験者数となりました。

また、8月末日までに発表された都県の1次試験合格者は、神奈川県が13名(昨年12名)、福島県が1名(0名)、東京都が2名(0名)、静岡県が1名(1名)で合計17名(昨年：16名)となり、近年では最多となりました。

8月に入り、直ちに3週間にわたる2次試験対策を実施しましたが、卒業生は有給休暇を利用して参加し、また、他大学(筑波大・東海大・神奈川大他)からも11名が参加し、2次試験の合格に向けて真剣に取り組み、現在、10月上旬からの最終発表を待っています。

<校種別受験者数>中学校：12名(昨年：9名)高等学校：46名(45名)計：58名(54名)

<受験都道府県>岩手県：1名(1名)宮城県：1名(1名)秋田県：1名(0名)山形県：2名(2名)福島県：2名(1名)群馬県：1名(1名)埼玉県：1名(0名)東京都：3名(2名)神奈川県：46名(40名)新潟県：1名(1名)静岡県：2名(3名)横浜市：2名(2名)合計：11都県・横浜市(昨年：11都府県・横浜市・川崎市)(注)複数県受験者があるため受験者数は延べ数(62名)です。

<受験教科等>中学校 数学：8名(6名)／理科：1名(3名)／技術：3名(0名)
高等学校 数学：6名(9名)／理科(物理・化学・生物)：21名(13名)／工業(電気・機械・化学)：14名(16名)／情報：5名(6名)
1次合格者数(8月末現在)：17名(昨年：16名)

一昨年：16名)

都県名 神奈川県：13名(12名)福島県：1名(0名)東京都：2名(0名)静岡県：1名(1名)
<教科等>中学数学：1名／中学理科：1名
高校数学：1名／理科(化学)：2名／理科(生物)：3名／情報：2名／工業(電気)：5名／工業(機械)：1名／工業(化学)：1名

学生課

今後の予定

体育祭 10月13日
学園祭(第38回幾徳祭 テーマ：ECHO) 11月9日～10日
後援会総会 11月9日
第4回学長杯学科対抗ソフトボール大会 11月20日
地域交流イベント<幾徳杯>
第21回幾徳杯少年野球大会
10月19日～11月10日
第20回少年サッカー大会 11月23日、24日
第11回ゲートボール大会 12月7日

その他お知らせ

インフルエンザ予防接種の実施
10月下旬実施予定(実施日は決定次第KAIT Walker等で通知します)

キャリア就職課

キャリア就職支援講座実施予定

【公務員試験対策講座】(2年・3年)

10月12日・19日・26日・11月2日・16日・30日・12月7日・14日・21日

【後期就活セミナー】

(H27年3月学部卒業及び博士前期課程修了予定者)
10月15日・16日・22日・23日・30日・11月5日・14日・20日・12月17日・18日・1月7日

【魅力ある企業研究会】(1年・2年・3年・大学院1年)

10月28日・11月11日・25日・12月16日

【合同企業説明会】(4年・大学院2年)

10月下旬・11月下旬

【面接対策合宿セミナー】

(H27年3月学部卒業及び博士前期課程修了予定者)
11月23日・24日

【長野県合同企業説明会】

(H27年3月学部卒業及び博士前期課程修了予定者)
12月7日

【業界研究会】

(H27年3月学部卒業及び博士前期課程修了予定者)
12月9日・10日・11日・12日・13日・1月8日・9日・10日

【静岡県合同企業説明会】

(H27年3月学部卒業及び博士前期課程修了予定者)
12月26日

※「魅力ある企業研究会」と「公務員試験対策講座」は対象学年以外も受講可能

「太陽電池の研究」出荷検査で実用化

電気電子情報工学科 板子一隆教授

神奈川工科大学

厚木市に位置する神奈川工科大学では、再生可能エネルギーに関する研究で成果があった。板子一隆教授は、太陽電池の一部のセルが太陽光の影になることで温度が上昇してしまう「ホットスポット」現象について、同現象を起す可能性の高いセルをパネル出荷前の段階で特定する技術を開発した。太陽電池メーカーが出荷検査を早めるほか、太陽電池を任入れ電流の変化（電流比）を検出するシステムとして販売できる企業に、電池の受け入れ検査で活用する予定だ。

太陽電池の研究 出荷検査で実用化

日刊工業新聞／平成25年7月10日掲載

朝日新聞「私の視点」に寄稿

基礎・教養教育センター 山本聡教授

私の視点

神奈川工科大学教授（法学・刑事法）
山本 聡

「悪ふざけ投稿」
「悪ふざけ投稿」は、インターネット上で匿名で投稿される悪意のあるコメントや投稿のこと。これは、インターネットの匿名性を利用して、投稿者が責任を回避し、悪意のある投稿を行うことができるため、被害者にとっては大きな精神的苦痛や社会的不利益をもたらす。また、悪ふざけ投稿は、インターネット上のコミュニケーションの信頼性を損ない、健全な議論や意見交換の場を萎縮させる。悪ふざけ投稿の増加は、インターネットの健全な発展を妨げる要因の一つとして懸念されている。悪ふざけ投稿の防止には、投稿者の匿名性を確保しつつ、投稿内容の監視と削除を行うことが重要である。また、被害者に対する心理的支援や法的救済の仕組みを整えることも必要である。

制裁一辺倒、安易すぎる

悪ふざけ投稿に対する制裁は、一辺倒に安易すぎる。悪ふざけ投稿は、インターネット上のコミュニケーションの信頼性を損ない、健全な議論や意見交換の場を萎縮させる。悪ふざけ投稿の増加は、インターネットの健全な発展を妨げる要因の一つとして懸念されている。悪ふざけ投稿の防止には、投稿者の匿名性を確保しつつ、投稿内容の監視と削除を行うことが重要である。また、被害者に対する心理的支援や法的救済の仕組みを整えることも必要である。

朝日新聞／平成25年9月5日掲載

「モバイル学生証」 学生証と体組成計を連動

ソフトウェア開発のシー・エス・イー（東京・渋谷、関）は、学生証と体組成計を連動させた「モバイル学生証」を開発した。体組成計が測定した体重や体脂肪率などのデータを、学生証に紐づけて蓄積し、スマートフォン（スマホ）で確認できる。学生証と体組成計を連動させた「モバイル学生証」を開発した。体組成計が測定した体重や体脂肪率などのデータを、学生証に紐づけて蓄積し、スマートフォン（スマホ）で確認できる。学生証と体組成計を連動させた「モバイル学生証」を開発した。体組成計が測定した体重や体脂肪率などのデータを、学生証に紐づけて蓄積し、スマートフォン（スマホ）で確認できる。

学生証と体組成計連動

スマホに体重・体脂肪率
シー・エス・イー、タニタと

だかルテで、データの変化をグラフなどで確認できる。神奈川工大では、管理栄養士を養成する栄養生命科学科の教員が、学生の許可を得たうえで、計測データを研究にも活用する方針。2014年度に開設する新しい学生食堂には、シー・エス・イーの新システム（運動する券売機を導入し、摂取カロリーの管理に役立つ。システム価格は50万円から）。

日本経済新聞／平成25年8月5日掲載

NHK情報番組に出演

情報メディア学科 白井暁彦准教授

NHK総合テレビ放映の「マサカメTV～花火にまつわるまさかの目のつけどころ!」に、情報メディア学科の白井暁彦准教授が出演し、「打ち上げ花火にもっと感動できる方法」を、解説しました。白井准教授は、視覚や聴覚などあらゆる感覚を駆使して楽しめるエンタテイメント・システムを研究しています。



NHK総合テレビ「マサカメTV」／平成25年7月20日放送

「かわさきロボット競技大会」で優勝

ロボット工学研究部

**神奈川工科大が
かわさきロボ優勝**

20回目の大会
かわさきロボット競技大会は、毎年開催されている。今年も多くのチームが参加し、激しい競争が行われた。神奈川工科大学のロボット工学研究部は、今回も優勝を収めた。優勝したチームは、無線で操縦できるロボットを開発し、高いパフォーマンスを示した。大会は、ロボットの技術力とチームワークを競う重要な機会となっている。

無線で操縦 メカ格闘

無線で操縦可能なロボット同士が格闘する様子が、会場を盛り上げた。観客からは大きな歓声が上がり、熱戦が続いた。優勝したチームは、精密な制御と柔軟な戦略で、最終的に勝利を収めた。

東京新聞／平成25年8月26日掲載

次世代科学技術を議論 「国際シンポジウム」を開催

**次代科学技術を議論
創立50周年 国際シンポジウムが始まる**

神奈川工科大 創立50周年 国際シンポジウムが始まる。本日は、神奈川工科大学で「次代科学技術を議論 創立50周年 国際シンポジウム」が開催された。本日は、神奈川工科大学で「次代科学技術を議論 創立50周年 国際シンポジウム」が開催された。本日は、神奈川工科大学で「次代科学技術を議論 創立50周年 国際シンポジウム」が開催された。本日は、神奈川工科大学で「次代科学技術を議論 創立50周年 国際シンポジウム」が開催された。

神奈川新聞／平成25年8月28日掲載

**手作りEV 世界大会へ
神奈川工大チーム、上位目指す**

神奈川工科大学 電気電子情報工学科の「フォーミュラEVプロジェクトチーム」が、9月4日（イタリアで開かれる世界大会）日本から初参加し上位を目標とする。フォーミュラEVプロジェクトチームは、今年4月に開催された「手作りEV世界大会」で優勝し、上位を目指している。チームは、最新の技術とチームワークで、上位を目指している。

手作りEV 世界大会へ フォーミュラEVプロジェクトチーム

読売新聞／平成25年8月24日掲載
東京新聞／平成25年9月4日・5日掲載
神奈川新聞／平成25年9月11日掲載

創立50周年記念事業

エネルギー・ICT・ロボットの3分野で「神奈川工科大学国際シンポジウム」を開催～中国、韓国、タイなど6か国から20名が参加～

「次世代社会を切り拓く科学技術—エネルギー・ICT・ロボット—」。創立以来50年間、建学の理念である「科学技術立国」を支える人材を養成し世に送り出すとともに、研究面でも多くの成果を社会に還元してきた神奈川工科大学ですが、8月27日～29日の3日間にわたって、創立50周年記念事業「神奈川工科大学国際シンポジウム」を開催致しました。

グローバル化が著しい進展を見せる中、シンポジウムは神奈川工科大学50年の実績を背景に、本学と連携が深く目覚ましい発展を遂げつつあるアジア地域の大学を中心に研究者を招き、わが国の第一線で活躍する研究者とともに冒頭に掲げたエネルギー、ICT、ロボットの3分野の研究でさらに連携を深めようというもの。「次世代を切り拓く科学技術」を統一テーマに、各専門分野の視点からの研究発表と活発な討論・討議が行われました。

今回海外から参加したのは本学の提携大学である揚州大学や武漢大学など中国から11名、韓国とタイから各3名、シンガポール、台湾、デンマークから各1名の計20名。国内からの参加者を加えると総数は約300名にのびりました。

初日の午前中はオープニングセッションです。本学の小宮一三学長が「Challenge, Change and Creation (挑戦、変化、そして創造)」をテーマに基調講演を行いました。日本の科学技術の現状や神奈川工科大学の概要と研究体制、代表的研究の紹介、研究成果などに触れた後「時代の変革期にあたり、科学技術立国を目指すわが国において、新しい技術を創造し、また次世代を担う技術者を育成する大学の役割は大きい。神奈川工科大学は、50周年を次の飛躍の機会と捉え、さらに努力を重ねていく所存です」とまとめると、会場からは大きな拍手が送られました。その後はエネルギー、ICT、ロボットの各セッションに分かれてセッション（研究発表）が行われるとともに、セッションごとに関連の深い本学学科の研究施設などを訪問する学内ラボツアー、地元厚木市のNTT厚木研究開発センタ、話題の大規模太陽光発電・メガソーラーに取り組んでいる同じく厚木市内の神奈川電力㈱などを見学するテクニカルツアーなどが行われました。

さらにロボットセッションでは、2日目の午後近隣の小中学生約40名と保護者役30名が参加して、世界的なブロック玩具「レゴ」で作ったロボットにプログラミングをして動かす「LEGO Education Academy」が行われ、会場からは「あっ動いた!」「やったー!」などの歓声上がり、参加者全員が夢中で取り組んでいました。

最終日の午前中には、大学間の交流をより深くしていこうという意味合いを込めて「教育・研究における国際協力の促進」をテーマにパネルディスカッションも行われ、今現在、本学または他の大学の国際プログラムがどうなっているのか、教育・研究において教員や学生の交換・交流がどのようになされているのか。その実情報告と、それに関して今後どのような協力関係が図れるのか、議論が重ねられました。「海外の大学との具体的な交流という側面では、ポストドクターの受け入れの話が出るなど、今回のシンポジウムをきっかけに交流・連携が具体的に動き始めました。また、たくさんの学生が夏休みに関わらずお手伝いとして参加。普段、できないような貴重な体験をしたようです。」と準備・運営を担当した国際課では話しています。



神奈川工科大学 国際シンポジウム
KAIT International Symposium 2013 Welcome



「Iwatani スペシャル鳥人間コンテスト2013」 滑空機部門で優勝!

「Iwatani スペシャル鳥人間コンテスト2013」が、7月27日、28日に、滋賀県彦根市の琵琶湖松原水泳場で開催されました。

昨年に続き、「みたか+もばらアドベンチャーグループ」と、本学のサークル「新鳥人間プロジェクト」のメンバーおよびOBの合同チームで参加し、猛暑の中、大会本番では素晴らしい飛行がなされ、大会記録460.07mを飛行。滑空機部門で見事、優勝しました。同チームは、昨年に続き滑空機部門2連覇です。また、大会の様子は、9月4日に読売テレビ・日本テレビ系全国ネットでTV放送されました。

(※関連記事を本誌P.41にて掲載)



写真提供: ytv

新井奨学金授与式を行いました

6月20日、平成25年度新井奨学金授与式が行われ、小宮学長より奨学金が授与されました。同奨学金は、故新井清之助名誉教授から奨学の目的で贈られた寄付金を、本学学生(学部3・4年生対象)の学業・人物ともに優れた学生に給費されます。



【平成25年度 新井奨学金授与者】

<工学部>

機械工学科 佐藤 日香 さん
電気電子情報工学科 安西 淳史 さん
応用化学科 林 綾香 さん

<創造工学部>

自動車システム開発工学科 内藤 晃裕 さん
ロボット・メカトロニクス学科 山口 諒 さん
ホームエレクトロニクス開発学科 有馬 一貴 さん

<情報学部>

情報工学科 舟橋 力 さん
情報ネットワーク・コミュニケーション学科 石川 諒 さん
情報メディア学科 武田 茉莉 さん

<応用バイオ科学部>

応用バイオ科学科 畑山 靖佳 さん
栄養生命科学科 野本 侑季 さん